

令和4年度  
事業報告書

---

Annual report



学校法人 高田学苑

---

Takada Gakuen

# Contents

## 法人の概要

・・・ 2～9

建学の精神/教育方針/設置する学校、定員及び現員/役員・評議員/教職員数  
組織構成図/校舎敷地及び建物等の概要/学生・生徒志願者数推移/  
学生・生徒在籍者数推移表/学生・生徒進路状況

## 事業実績の概要

・・・ 10～16

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況/監査法人監査報告/危機管理への取り組み/  
夏期教職員研修会/開校150周年記念式典/教職員の健康管理体制/教職員の表彰/  
教職員の異動状況/給付型奨学金・授業料減免（助成）/短期大学入学金免除制度/  
高田学苑クラブチーム事業報告

## 教育活動の実績

### －高田短期大学－

・・・ 17～36

時代・社会の変化に即応した取り組み  
学士力向上を目指した教育課程の展開/主体性・協調性を育む短大生活支援/  
キャリア教育・キャリア支援の充実/学生募集と高大交流事業/外国人留学生支援について

地域への社会貢献事業

地域連携施設

仏教教育研究センター/育児文化研究センター/キャリア研究センター/介護福祉研究センター

その他

施設設備の整備事業の実績

### －高田中学校・高等学校－

・・・ 37～56

命の大切さを考える教育の推進/きめ細やかな学習指導の推進/  
ICT教育とアクティブラーニング対策/キャリア教育の推進/部活動の推進/  
危機管理・安全教育への取り組みの推進/国際理解教育推進/生徒募集活動/施設設備の整備事業実績

## 財務の概要

・・・ 57～67

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）  
活動区分資金収支計算書の概要  
事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）  
令和4年度補助金一覧表  
貸借対照表の概要  
財産目録

## 法人の概要

### 建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



### 教育方針

#### 短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



#### 中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



### 設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学            三重県津市一身田豊野 1 9 5
- ◆ 高田高等学校           三重県津市一身田町 2 8 4 3
- ◆ 高田中学校             三重県津市一身田町 2 8 4 3

(令和4年5月1日現在)

#### 高田短期大学

学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	159名	191名	350名
キャリア育成学科	100名	200名	91名	93名	184名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 61名	〔 69名	〔 130名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 30名	〔 24名	〔 54名
合 計	250名	500名	250名	284名	534名

#### 高田中・高等学校

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	570名	1,690名	600名	559名	572名	1,731名

(学則定数 730 名)(3 ヶ年計 2,190 名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	190名	570名	207名	190名	200名	597名

(学則定数 240 名)(3 ヶ年計 720 名)

## 役員・評議員

(令和4年5月31日現在)

理事			定数10名 実数9名
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長(学苑長)	
	梅林 久高	高田短期大学 学長	
	鷺尾 尚史	高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	井村 正勝	井村屋グループ(株) シニア・フェロー	
	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送(株) 相談役	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 理事相談役	
	松田 英明	三重牛セキ販売(株) 代表取締役社長	

監事			定数2名 実数2名
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文	下津醤油(株) 代表取締役会長	
	山中 利之	山中利之税理士事務所 公認会計士・税理士	

評議員			定数21~25名 実数22名
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長(学苑長)	
	梅林 久高	高田短期大学 学長	
	鷺尾 尚史	高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	鷺尾 敦	高田短期大学 キャリア育成学科長	
	福西 朋子	高田短期大学 子ども学科長	
	宇河 晴美	高田中・高等学校 副校長	
	高梨 正	高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	井村 正勝	井村屋グループ(株) シニア・フェロー	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 理事相談役	
	千草 篤磨	(福)高田真善会 報徳園 施設長	
	小柴 弥生	小柴産業(株)	
第5号 卒業者	松田 英明	三重牛セキ販売(株) 代表取締役社長	
	倉田 栄治	(株)津ドライビングスクール 代表取締役	
	伊藤 博康	(有)平治煎餅本店 代表取締役	
	稲田 直子	高田短期大学育児文化研究センター 学外研究員	
第6号 本山総務	弓削 弘嗣	(宗)真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送(株) 相談役	
	雲井 敬	三重交通グループホールディングス 監査役	
	浜田 吉司	(株)マスヤグループ本社 代表取締役	
	山田 瞳	楠井法律事務所 弁護士	

# 教職員数

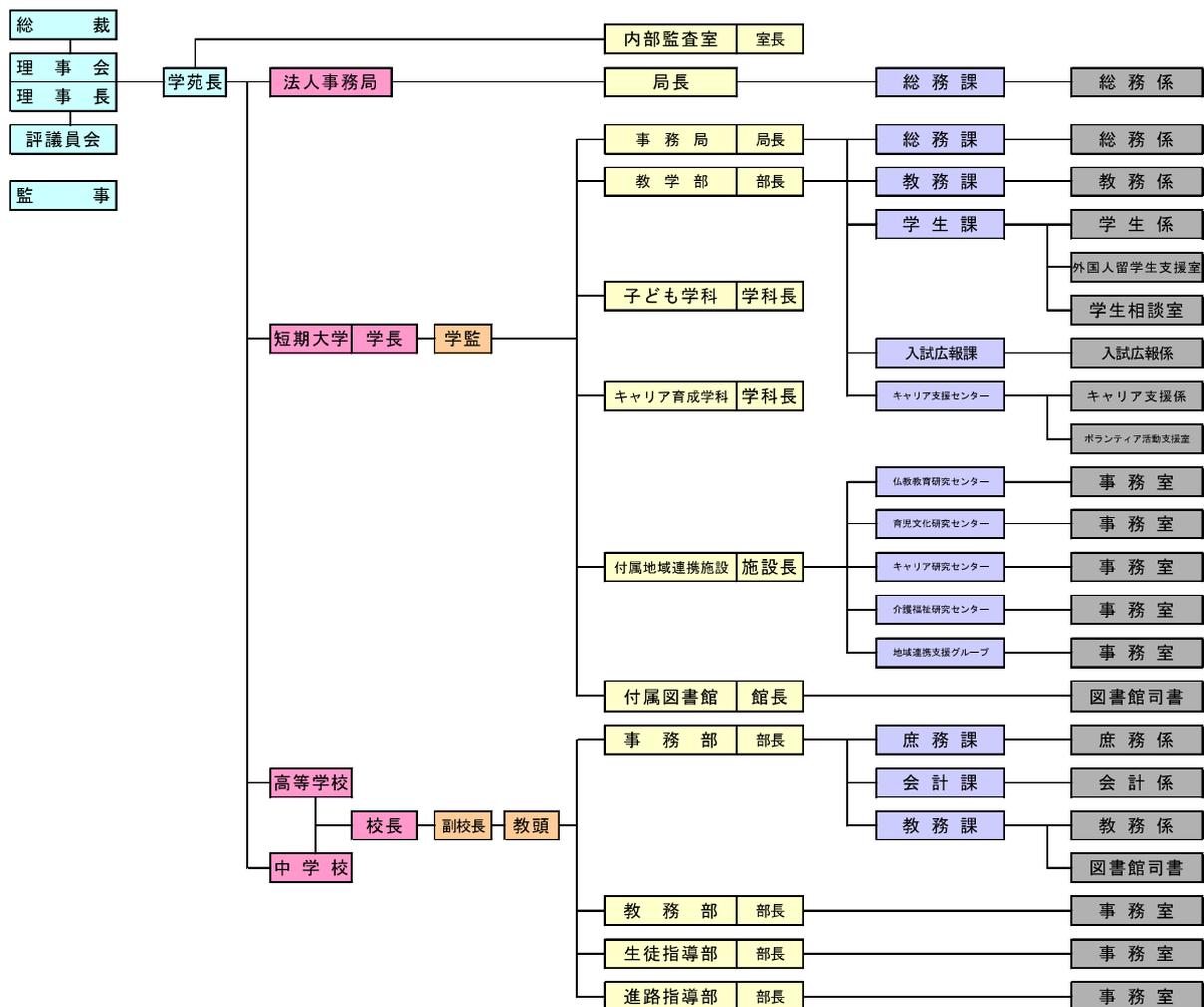
(令和4年5月1日現在)

	教 員		職 員		合 計	
	本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等		
本 部	—	—	5名	3名	8名	
短 期 大 学	子ども学科	16名	31名	14名	8名	69名
	キャリア育成学科	9名	36名	7名	8名	60名
	オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 6名 〔 3名	〔 18名 〔 18名	〔 6名 〔 1名	〔 4名 〔 4名	〔 34名 〔 26名
高等学校	101名	28名	8名	14名	151名	
中学校	29名	16名	3名	1名	49名	
合 計	155名	111名	37名	34名	337名	

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

# 組織構成図



## 校舎敷地及び建物等の概要

区分	専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991		
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979		
合 計	108,970	108,970			
校地以外の土地	61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

### 短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

### 法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
第3体育館	2081.54	6	鉄筋コンクリート・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	〃
クラブハウス1	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
クラブハウス2	162.00	11	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	28798.37	235		
合 計	41555.99	369		

備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

# 学生・生徒 志願者数 推移

(令和4年5月1日現在)

短期大学		H30	R1	R2	R3	R4
子ども学科		184	134	141	254	178
キャリア育成学科		109	121	105	107	103
	オフィスワークコース	79	77	71	81	64
	介護福祉コース	30	44	34	26	39
計		293	255	246	361	281
高等学校		H30	R1	R2	R3	R4
		3,046	3,254	3,064	2,787	2,885
中学校		H30	R1	R2	R3	R4
		507	521	544	554	569

# 学生・生徒 在籍者数推移表

短期大学

(令和4年5月1日現在)

区分	項目	H30	R1	R2	R3	R4		
子ども学科	在籍生数	321	283	249	321	350		
	収容定数	300	300	300	300	300		
	充足率	107%	94%	83%	107%	117%		
キャリア学科	在籍生数	172	183	187	188	184		
	収容定数	200	200	200	200	200		
	充足率	86%	92%	94%	94%	92%		
	オフィスワークコース	在籍生数	132	133	130	139	130	
		収容定数	120	120	120	120	120	
		充足率	110%	111%	108%	116%	108%	
介護福祉コース	在籍生数	40	50	57	49	54		
	収容定数	80	80	80	80	80		
	充足率	50%	63%	71%	61%	68%		
計	在籍生数	493	466	436	509	534		
	収容定数	500	500	500	500	500		
	充足率	99%	93%	87%	102%	107%		

## 中・高等学校

(令和4年5月1日現在)

区分	項目	H30	R1	R2	R3	R4	
高等学校	在学学生数	1,814	1,782	1,775	1,715	1,731	<p>1900 1700 1500 1300</p> <p>105% 103% 104% 102% 103%</p> <p>1,814 1,782 1,775 1,715 1,731</p> <p>H30 R1 R2 R3 R4</p>
	収容定数	1,752	1,728	1,704	1,680	1,680	
	充足率	104%	103%	104%	102%	103%	
中学校	在学学生数	599	604	605	586	597	<p>600 500 400 300</p> <p>111% 110% 108% 103% 105%</p> <p>599 604 605 586 597</p> <p>H30 R1 R2 R3 R4</p>
	収容定数	540	550	560	570	570	
	充足率	111%	110%	108%	103%	105%	
計	在学学生数	2,413	2,386	2,380	2,301	2,328	<p>2500 2000 1500</p> <p>106% 105% 105% 102% 103%</p> <p>2,413 2,386 2,380 2,301 2,328</p> <p>H30 R1 R2 R3 R4</p>
	収容定数	2,292	2,278	2,264	2,250	2,250	
	充足率	105%	105%	105%	102%	103%	

## 学生・生徒 進路状況

卒業生・進学者・就職者数

(令和5年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業生	185	65	24	274	
就職希望者	177	64	24	265	
就職決定者	177	64	24	265	
未内定者	0	0	0	0	
進学者	1	1	0	2	三重大学他
その他	7	0	0	7	家事従事等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4
津市	保育士	1	0	3	0	0	0	1	0	3
	幼稚園教諭	2	1	1	4	2	3	6	3	4
四日市市	保育士	2	0	3	0	1	0	2	1	3
伊勢市	保育士	0	0	2	0	0	0	0	0	2
松阪市	保育士・幼稚園教諭	8	7	6	0	1	0	8	8	6
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	1	2	3	1	2	0	2	4	3
亀山市	保育士・幼稚園教諭	0	1	1	1	1	0	1	2	1
鳥羽市	保育士	3	0	1	1	0	0	4	0	1
志摩市	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	0	1	0	0	1
熊野市	保育士	0	0	2	0	0	0	0	0	2
伊賀市	保育士・幼稚園教諭	1	0	0	0	0	0	1	0	0
名張市	保育士・幼稚園教諭	1	0	0	0	0	0	1	0	0
川越町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
多気町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
玉城町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
度会町	保育士	0	1	2	0	0	0	0	1	2
大紀町	保育士	0	0	1	0	0	1	0	0	2
御浜町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
紀宝町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
三重県	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他県外	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	1	0	0	1	0
計		19	13	30	7	8	5	26	21	35

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R2	R3	R4	R2	R3	R4	R2	R3	R4
県・市町	行政	1	0	1	0	0	0	1	0	1

主な就職先・配属先

(令和5年5月1日現在)

子ども学科		高田幼稚園、津西幼稚園、道伯幼稚園、ときわ幼稚園、愛華保育園、志登茂保育園、なかよし保育所、松阪清泉愛育園、わかすぎ第二保育園、風の丘認定こども園、高田保育園、ほうりん認定こども園、ゆたかこども園、里山学院、三重県立子ども心身発達医療センター、市町立幼稚園・保育所・認定こども園 他
キャリア育成学科	オフィスワーク	三十三銀行、百五銀行、北伊勢上野信用金庫、JA共済連三重、JAみえなか、百五カード、正和製菓、中勢ゴム、サイネックス、三重電子計算センター、日本陸送、TSIホールディングス、三重いすゞ自動車、三重ダイハツ販売、三重トヨタ自動車、ミツイバウマテリアル、トヨタレンタリース三重、百五不動産調査、遠山病院、三重県警察 他
	介護福祉	あけあい会、三重県済生会、永甲会、嘉祥会、弘仁会、佐藤病院、聖マッテヤ会、緑の風 他

## 高等学校

卒業者・進学者・就職者数

		男	女	計
三年制	I類	88	130	218
	II類	87	74	161
六年制		103	87	190
計		278	291	569

進学合格者のべ数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制学	国立	3	1	21	4	29	68	24	92	121
	公立	0	0	7	0	7	15	3	18	25
	私立	184	4	283	49	520	376	134	510	1030
文部科学省所管外		0	0	1	0	1	0	1	1	2
海外		0	0	0	0	0	0	0	0	0
短大	公立	6	0	3	0	9	0	0	0	9
	私立	34	0	3	0	37	0	0	0	37
国公立各種・専門学校		6	0	6	0	12	0	0	0	12
私立各種・専門学校		36	0	8	0	44	1	0	1	45
就職		9	0	1	0	10	0	0	0	10
合計		278	5	333	53	669	460	162	622	1291

主な進学先

(令和5年4月現在)

国公立大学 146名		(医学科 26)					
筑波大学	1	名古屋大学	9	三重大学	40	広島大学	5
(医学科 1)		(医学科 4)		(医学科 14)		(医学科 3)	
福井大学	1	滋賀医科大学	1	名古屋市立大学	3	京都府立医科大学	1
(医学科 1)		(医学科 1)		(医学科 2)		(医学科 1)	
東京大学	4	京都大学	2	大阪大学	10	東京工業大学	3
東北大学	1	信州大学	5	静岡大学	3	神戸大学	3
私立大学 1030名		(医学科 36)					
慶應義塾大学	16	早稲田大学	20	上智大学	8	明治大学	13
青山学院大学	7	東京理科大学	25	立教大学	7	日本大学	8
法政大学	6	中央大学	12	東海大学	9	愛知医科大学	12
南山大学	25	中京大学	46	名城大学	54	近畿大学	44
愛知大学	8	愛知学院大学	25	京都産業大学	11	龍谷大学	15
同志社大学	33	立命館大学	46	関西大学	16	関西学院大学	31
関西医科大学	4	摂南大学	22	皇學館大学	70	鈴鹿医療科学大学	60
短期大学 46名							
高田短期大学	29	三重短期大学	9	愛知学院大学短期大学部	2	関西外国語大学短期大学部	2
専修学校 57名							
三重中央看護学校	9	三重看護専門学校	8	名古屋医専	5	旭美容専門学校	3

## 事業実績の概要

### 理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

令和4年度は高田学苑寄附行為に基づき、計4回の理事会、3回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。令和4年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	令和4年 5月27日(金)	・令和3年度決算(案)の承認について
	第2回	令和4年 5月27日(金)	・令和3年度決算(案)の承認について
	第3回	令和4年11月 4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度第1回収支補正予算(案)について</li> <li>・学校法人高田学苑定年規程の一部改正(案)について</li> <li>・学校法人高田学苑給与規程の一部改正(案)について</li> <li>・学校法人高田学苑退職手当支給規程の一部改正(案)について</li> <li>・育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正(案)について</li> <li>・高田短期大学学則の一部改正(案)について</li> <li>・学校法人高田学苑内部監査規程(案)の制定について</li> </ul>
	第4回	令和5年 3月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学苑長の選任について</li> <li>・理事長の職務の代理者について</li> <li>・学長の選任について</li> <li>・令和4年度第2回収支補正予算(案)について</li> <li>・令和5年度収支当初予算(案)について</li> <li>・高田短期大学学則の一部改正(案)について</li> </ul>
評議員会	定 時	令和4年 5月27日(金)	・令和3年度決算(案)の承認について
	臨 時	令和4年11月 4日(金)	・令和4年度第1回収支補正予算(案)について
	定 時	令和5年 3月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度第2回収支補正予算(案)について</li> <li>・令和5年度収支当初予算(案)について</li> </ul>
監事会	決算期	令和4年 5月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度短期大学及び中高等学校教学監査</li> <li>・令和3年度事業実績報告</li> <li>・令和3年度決算審査関係</li> <li>・質疑応答</li> </ul>
	上半期	令和4年10月28日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度短期大学及び中高等学校概要報告</li> <li>・令和4年度第1回補正予算書及び現預金状況</li> <li>・令和4年度事業実績報告(中間)</li> <li>・質疑応答及び実査</li> </ul>
内部監査委員会	第1回	令和4年 5月24日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度短期大学及び中高等学校教学監査</li> <li>・令和3年度事業実績報告</li> <li>・令和3年度決算概要報告</li> <li>・質疑応答</li> </ul>
	第2回	令和4年10月26日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度短期大学及び中高等学校概要報告</li> <li>・令和4年度事業実績報告(中間)</li> <li>・現金、預金及び有価証券の状況</li> <li>・学苑管理運営等について</li> </ul>

## 監査法人監査報告

監査法人監査		監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 5日 (火)	現金、通帳、証書等の実査	10月 6日 (木)	令和4年9月までの取引記録
5月19日 (木)	令和3年度決算監査①	12月14日 (水)	令和4年11月までの取引記録
5月20日 (金)	令和3年度決算監査②	2月 7日 (火)	令和5年1月までの短大取引記録
6月 8日 (水)	令和3年度決算監査③	3月20日 (月)	令和5年2月までの取引記録

## 危機管理への取り組み

### 非常食等の備蓄

東海地域は、今後の発生確率が高いとされる南海トラフ地震の影響が懸念されています。また、台風や豪雨による風水災害が全国各地で年々増加傾向であり、日頃からの備えに対して学苑全体で取組みを進めていく必要があると考えています。本年度は新入の学生・生徒分のほか、保存期限による更新のため教職員分についても非常食等備蓄品「白い小箱」を購入しました。この「白い小箱運動」は単なる非常食等の備蓄に留まらず、小箱の詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に自身で購入した白い小箱を寄付することで地域や食料物資を必要とする海外へ援助を行う「白い小箱運動」に参加する等の社会貢献活動として意義のあるものとなっています。



本年度は、日本非常食推進機構を通じて社会福祉法人三重県厚生事業団へ白い小箱200個、三重県子ども福祉部へ200個、津市健康福祉部へ166個、松阪市こども未来課へ350箱、鈴鹿市へ66箱の合計982個の寄付を行い、各団体・行政より障害者・児童養護施設や生活困窮者へ届けられます。

## 夏期教職員研修会

### 講演 「今こそ問われる“ハンセン病”の教訓 ～コロナ禍で考える差別～」

三重テレビ放送 報道制作局長 小川 秀幸 氏

新型コロナウイルス感染症の影響で一昨年から開催を見送っていましたが、令和4年8月19日(金)高田中・高等学校講堂において、教職員約200人を対象に2年越しでの開催となりました。

今回の講演は20年にわたりハンセン病に関する記録番組の制作に携わっている小川秀幸氏を講師に迎えて行われました。講演の中で、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大で差別や偏見に苦しむ人が増えていることを指摘したうえで、ハンセン病は過去のことで、人ごとではない。コロナを含む他の病気、さまざまな立場の人に同じ事が起こらないよう考えていきたいと述べられ、取材を通じて出会った三重県出身の療養所入所者にスポットを当て、その方々の想いや強さについても触れることで、ハンセン病患者への偏見や差別の教訓から何を学び、どのように行動していくかを一人一人が考える機会となりました。



## 開校150周年記念式典

寛政9年（1797年）に高田本山内講堂に「勸学堂」の額を掲げて末寺子弟への教授を開始し、明治5年（1872年）以降は広く一般子弟にも教場が開かれて以来、令和4年（2022年）で開校150年を迎えました。これを記念して、6月12日（日）開校150周年記念式典が開かれ、代表生徒・学生、教職員、卒業生等の約350人が参加して厳かに執り行われました。式典の中では高臣理事長より式辞が述べられ、今後も不易流行の学苑の歩みを継承し、建学の精神を基に、一人ひとりを大切にする教育を行ってまいりますと語られました。また、高田本山専修寺法主殿である常磐井慈祥様をはじめ、衆議院議員である田村憲久氏（元厚生労働大臣）といった来賓より祝辞をいただきました。



式典後には、三重県知事の一見勝之氏が「更なる成長へ～三重の挑戦～」と題して三重県の魅力や課題をテーマに記念講演を行っていただき、式典・講演ともに盛況のうちに終了致しました。また、記念誌の発行のほか、下記の記念行事が開催されました。



### 【 記念行事 】

#### ○～甦る青春！高田本山専修寺探訪～ 10月24日（月）

150周年を記念して本学卒業生を対象に、国宝である高田本山の諸堂巡りを解説付で行いました。家族限定で2名まで参加していただくことも可能で、若かりし頃の思い出と共にゆっくりと高田本山を散策していただくことができました。

#### ○150周年記念教育文化講演会 11月9日（水）・10日（木）

人気テレビ番組「プレバト！」（TBS系列）等で活躍中の俳人 夏井いつき氏をお招きし、中学生と高校生を対象に句会ライブが開催されました。最初、俳句は難しくて苦手という生徒が多く見受けられましたが、夏井先生から俳句の作り方を教わったあと自作の俳句を全員が完成させ、その中から優秀句7選が夏井先生から発表され、それらを参加者全員で鑑賞後に生徒の拍手で最優秀句が選ばれました。夏井先生の活気あふれるライブは生徒の創作力や鑑賞力を刺激し、会場全体が俳句を通して一体となる盛況ぶりとなりました。



## 教職員の健康管理体制

### 健康診断・任意検診

本学は平成23年度より夏期休暇中に学校保健安全法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた検査項目を遵守した健康診断を実施しています。令和4年度も検診時の密閉・密集・密接を避け、8月23日（火）、24日（水）、25日（木）、26日（金）の4日間で実施し、教職員221名が受診しました。コロナ禍での健康診断実施のため、昨年度より検診日を1日増やし、受付時間を分散させて設定するなど円滑に検診が受けられるよう努めています。任意検診については、これまで腹部・乳エコーや胃・大腸・前立腺・卵巣・膵臓・消化器系のがん検査が受診可能でしたが、令和4年度は血液検査での甲状腺・心臓リスクの判定が新たに加わりました。また、令和元年度から始まった巡回型人間ドックも継続しています。

検査結果は個人へ直接通知され、教職員の健康管理に役立てられると共に、この結果をもとに産業医である岩崎病院が教職員の健康を確保する必要があると認めた場合は、本学に対し教職員の健康管理等について必要な勧告がなされます。

### ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により平成27年12月以降、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から事業所に義務付けがなされました。教職員はストレス判定を行う調査票の質問項目に回答することで自身のストレス度合いがわかります。ストレスチェックを行うことで高ストレス者を抽出し、メンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を講じることでメンタル不良者の発生を防ぎ、より働きやすく健康的な職場へと改善することを目指します。今年度は6月1日（水）より一ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。事業所としては検査結果を通知された教職員の希望に応じて医師による面接指導の実施を行う必要があり、またその結果、医師の意見を聞いた上で、必要な場合には、作業の転換や労働時間の短縮といった適切な措置を講じる責任があります。昨今のコロナ禍への対応や教職員へ求められるものが多様化するなかで教職員を守る一助となるようストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋げていきます。

### インフルエンザ予防接種

平成28年度から毎年実施しております学苑内での予防接種ですが、今年度も三重県健康管理事業センターに来校いただき、11月14日（月）、11月18日（金）の2日間にて実施しました。希望者した122名が予防接種を受け、予防接種の費用については、これまで同様に学苑が一部負担となります。

## 教職員の表彰

特別表彰	
中・高等学校	11月 2日(水) 計 2名
優良教職員	教諭 1名 (公財)三重県スポーツ協会 優秀監督賞受賞による
	教諭 1名 (公財)三重県スポーツ協会 優秀選手賞受賞 三重県知事 三重県スポーツ優秀賞受賞による

永年勤続表彰			
短期大学	11月 7日(月)	計 5名	
35年勤続	1名	25年勤続	2名
20年勤続	1名	10年勤続	1名
中・高等学校	11月 2日(水)	計 25名	
35年勤続	5名	30年勤続	1名
25年勤続	4名	20年勤続	3名
15年勤続	9名	10年勤続	3名

## 教職員の異動状況

		採用			退職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授					
	准教授					
	講師					1
	助教	1				2
	本務職員	1				
	特任教授			1		1
	特任准教授					
	特任講師	1				
	嘱託職員	1				3
	非常勤職員	1				1
中・高等学校	教諭	1	2			3
	本務職員					
	講師		1			
	講師嘱託	2				
	ALT					1
	嘱託職員	1	2			1
	非常勤講師	5				9

## 給付型奨学金・授業料等減免（助成）

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生（外国人留学生を除く）を支援する。
決定者	7名(1年生10名、2年生4名)
奨学金額	1,800,000円(1年生は年額10万円給付、2年生は年額20万円給付)
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	33名(減免率についてはGPAと出席率によって決定)
奨学金額	8,328,000円

## 短期大学入学金免除制度

高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	令和2年度入学	令和3年度入学	令和4年度入学
人 数	36名	40名	28名

## 高田学苑 クラブチーム事業報告

### 令和4年度 みえ高田F C

三重県の高等教育機関魅力向上補助事業の採択を受け、県内の中学・高校・短大生と社会人から構成される女子サッカークラブチームとして平成27年度に設立され、全国でも珍しい学校法人が運営する女子サッカークラブチームです。これまで監督である元なでしこジャパンの宮本ともみ氏指揮のもとでの活動でしたが、2021年に宮本氏のU-20日本女子代表コーチへの就任が決まり、みえ高田F Cの指揮を新たに小澤亮二氏に託すこととなりました。小澤氏はこれまで三重県サッカー協会のトレセン女子指導員や三重県国体選抜（女子）監督等を歴任し、三重県のサッカー競技の向上と普及に貢献されてきました。国際大会レベルのプレイヤー・チームに対して競技力向上を目的としたコーチング資格を有しており、その手腕をみえ高田F Cで発揮して頂きます。これまで同様に地域に根づいた活動を行い、サッカー競技を通じて世界を舞台に活躍できる優れた人材を育成することを目的として活動を行ってまいります。

平成28年度からは県内リーグへ参戦し、平成30年度には県内リーグで上位にランクインしました。令和4年1月には東海リーグ参入戦を迎え、初戦を勝利し次年度に向け昇格に大きく前進しましたが新型コロナウイルス感染症の影響から大会中止が決定し昇格は見送りとなりました。しかしながら大会でのチームの評価は高く、その後の活動の幅が更に広がる結果となりました。

令和4年度としては、公式戦・練習試合を併せ94試合を行い、U-15との対戦にとどまらず、高校（U-18）、一般（成人）、男子（U-15世代）とも対戦することで競技力向上に取り組んできました。三重県U-15リーグでは決勝まで勝ち進みましたが県下強豪チームの楠クラブレディ

ースに惜敗となり準優勝という結果となりました。また、三重県女子リーグでは全勝優勝を勝ち取り、東海リーグ参入戦に出場しました。結果は惜しくも敗退となったものの、今後への手応えを感じさせる試合内容でした。そのほか、国体選抜少年女子U-16メンバーにチーム内から7名が選出されたほか、東海トレーニングセンターメンバーとして5名、三重県トレーニングセンター女子U-15には10名が選出され、過去最も多い状況となっています。「育成」「強化」への取組を行う中、女子サッカーの「普及」活動を三重県内でもより活発に行ってきた結果、県内外からの評価や本学苑への関心なども高まってきており、様々な形で今後の活動へ波及していくことが期待されます。今後の活動としては、この恵まれた環境を最大限に活かし、日本代表(なでしこJAPAN)3名の実現や教育とスポーツの両輪を持つ、女性スポーツ環境の確立の実現に取り組んでいきます。

#### 【令和4年度 公式戦日程・結果一覧】

No.	日程	区分	対戦相手	カテゴリー	結果	スコア			備考
1	5月4日	公式戦(U-15リーグ)	楠クラブレディース	女子(U-15)	○	4	-	2	
2	5月15日	公式戦(U-15リーグ)	ヴィアティン三重レディースユース	女子(U-15)	○	12	-	0	
3	7月10日	公式戦(県リーグ)	ルビナ四日市	女子(一般)	●	2	-	3	
4	8月28日	公式戦(県リーグ)	FCミナス	女子(一般)	○	12	-	0	
5	9月23日	公式戦(U-15選手権)	伊賀FCくノ一三重サテライト	女子(U-15)	○	7	-	1	準決勝
6	10月2日	公式戦(U-15選手権)	楠クラブレディース	女子(U-15)	●	2	-	4	決勝
7	10月15日	公式戦(県リーグ)	伊賀FCくノ一三重サテライト	女子(高校/U-18)	○	4	-	1	
8	11月20日	公式戦(県リーグ)	FCミナス	女子(一般)	○	7	-	1	
9	12月3日	公式戦(県リーグ)	伊賀FCくノ一三重サテライト	女子(高校/U-18)	○	5	-	0	
10	12月4日	公式戦(県リーグ)	ルビナ四日市	女子(一般)	△	2	-	2	
11	令和5年1月21日	公式戦(東海U-15参入戦)	飛騨 Dream FC	女子(U-15)	●	0	-	5	



#### 令和4年度 みえ高田VC S a l a

平成28年度に県下初の社会人バレーボールとして発足し、春高バレー三重県大会で幾度も優勝へ導いた実績のある秋津修氏を監督に迎えて活動してきました。これまでには全国大会3位に輝いたほか、令和2年には三重とこわか国体・Vリーグ参入を目指すため、ヴィアティン三重と統一チームを編成して活動予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により令和3年度三重とこわか国体が残念ながら中止となってしまいました。その後、ヴィアティン三重はVリーグへ参戦、みえ高田VC S a l aは社会人バレーにおいて活動することとなりました。

令和4年度、みえ高田VC S a l aとしては高田短期大学卒業生を中心にメンバーを一新し、これまで同様に社会人バレーボール大会への参戦を継続しています。新体制での活動のため、これまで以上に練習に時間を割いて準備を進めてきており、11月に行われた三重県クラブバレーボール連盟主催の公式戦では優勝するなど着実に力を付けてきており、今後の活躍が期待されます。

# 教育活動の実績 —高田短期大学—

## 時代・社会の変化に即応した取り組み

### 1 学士力向上を目指した教育課程の展開

#### 学生の主体的・自律的な自己評価充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」で示した「共通到達目標（全学的学修成果）」に到達できるよう、「履修マップ」、「ルーブリック評価」等のツールを積極的に活用し、一部の科目においては学生自らが成果を点検し評価できる充実した自己評価サイクルを示すことができました。

#### オンライン授業環境の整備（教育支援システムの活用）

新型コロナウイルス感染症拡大に端を発したオンライン授業環境を整備し活用することで、感染拡大期、縮小期に関わらず、継続して能動的な学修力の向上を目指せる環境づくりを推進しました。教育支援システム「manaba」を利用し、各教員からの資料の提示、授業グループによる質疑応答、課題の提供などを行い、学外においても学修を継続できる授業環境が整いました。

### 2 主体性・協調性を育む短大生活支援

#### (1) 新入生研修

日時 4月22日（金）

会場（子ども学科） 本学

（キャリア育成学科） COCOPA RESORT CLUB

白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

研修内容 新入生研修をとおして、短大生としての自覚・自立心および協調性を養うとともに、学生・教職員相互の理解と親睦を深めることにより、今後の短大生活をより有意義に送れるようにすることを目的としています。今年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止のため宿泊は行わず、会場も密を避けるため学科ごとに別会場での実施となりました。



#### (2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画していますが、今年度は昨年に引き続きコロナ禍により中止や縮小となる行事もありました。

##### ① TJC祭（スポーツ大会）

日時 5月14日（土）

場所 本学体育館

内容 新入生歓迎および学生の親睦を深めることを目的に開催しました。スポーツを行うには最適な時期で約80名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。



② 学生自治会主催 抽選会

日 時 7月25日(月)・12月26日(月)

場 所 1号館4階講堂

内 容 学内コンビニおよび笑旨XXと連携し、学内で買い物をした学生を対象に学生自治会が抽選会を行いました。



③ 第56回高短祭

日 時 10月22日(土)・23日(日)

場 所 本学

内 容 新型コロナウイルスの影響が残る中、初日は午前中のみ、二日目は午後のみとし、外部公開は行わず在学生と教職員のみで開催しました。



(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会

日 時 8月4日(木) 10:40~

場 所 第4会議室

出席者 梅林学長、執行委員11名、教職員9名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1) 高短祭について

2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換

(4) 白い小箱贈呈式

日 時 9月20日(火) 13:00~

場 所 本学

出席者 三重県厚生事業団

自治会執行委員2名、教職員4名

内 容 卒業生が本学に残してくれた白い小箱(災害用備蓄品)を厚生事業団へ寄付しました。この寄付した白い小箱は、厚生事業団を通じ福祉施設等へ届けられ、避難訓練や万が一の場合の備蓄品として使用されます。



### 3 キャリア教育・キャリア支援の充実

#### キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と就職ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しています。

2022年度 入学生 (1年生)	子ども学科	就職ガイダンス	3回実施
		キャリアスタディ	8回実施
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	プレ就職講座	2回実施、就職講座 7回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施、就職講座 3回実施
2021年度 入学生 (2年生)	子ども学科	就職講座	4回実施
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	就職講座	4回実施（コースフォローアップ講座、就職前講座を含む）
	介護福祉コース	就職講座	4回実施

#### 公務員試験対策

(1) 教養試験対策講座（受講者数）（ ）内は内数で事務

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
1年生	83(5)人	80(3)人	130(20)人	145(7)人	85(9)人
2年生	46(1)人	53(2)人	32(2)人	52(1)人	77(2)人

※2022年度入学生（1年生）は、9月7日（水）から令和5年3月10日（金）まで21回実施  
2021年度入学生（2年生）は、4月21日（木）から7月5日（火）まで12回実施

(2) 保育専門対策講座

2年生 3月22日（火）～3月28日（月）：計9回実施（令和3年度実施）

1年生 12月6日（火）～令和5年2月28日（火）：計8回実施

(3) 数学対策講座 2年生（4月～計6回実施）、1年生（9月～計24回実施）

(4) 公務員試験保育専門分野に関する勉強会

(5) 市町別公務員二次・三次対策講座（四日市市、松阪市、鈴鹿市）、他、随時個別対応



#### 学生への就職支援

キャリア支援センターには、キャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター4名が配置され、センター長と庶務担当を合わせて総勢7名の職員が、学生の進路相談や就職活動などについてきめ細やかな支援を行っています。



#### 卒業生への支援と早期離職の防止対策

生涯キャリア支援を旗印に、離職したり、仕事上の悩みなどで相談に来たりする卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。早期離職防止対策については、令和5年2月20日（月）、各学科コース別の就職前講座で指導しました。

## 「キャリアカルテ」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回（年13回）、キャリア支援委員会を開催して、各学科コースとキャリア支援センターの教職員が、一人ひとりの学生に対するキャリア支援のあり方について協議しています。また、日常的には就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした「高短キャンパスネット」(Web)を活用して、教職員間の情報共有と意思疎通を図っています。

## 4 学生募集と高大交流事業

### (1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は下記のとおりです。

- ① 出張ガイダンス（協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う） 67回（17校）
- ② 出前（模擬）授業（協定校へ出向いて出前授業を行う） 18回（9校・23講座）
- ③ 特別授業・授業見学・施設見学など 6回（5校・10講座）  
（本学の授業に出席、本学の施設・設備見学）



### (2) 高大教育交流連絡協議会

令和5年2月24日（金）に、令和4年度高大教育交流連絡協議会を開催し、三重県内の「高大教育交流協定校」等17校と本学教職員が参加しました。本学から入試結果や進路状況などを報告したほか、野呂教授による講演を行いました。また、各高校の教員と本学教職員とでグループワークを実施し、情報共有や意見交換を行うなど、交流を深めました。

### (3) オープンキャンパス実施結果

#### ① 日時

- 第1回 6月4日（土）13:00～16:00
- 第2回 7月10日（日）13:00～16:00
- 第3回 8月6日（土）13:00～16:00
- 第4回 8月21日（日）13:00～16:00
- 第5回 10月29日（土）13:00～15:00（キャリア育成学科のみ）
- 第6回 12月18日（日）13:00～15:00
- 第7回 令和5年3月12日（日）13:00～16:00

#### ※子ども学科ミニオープンキャンパス

- 7月26日（火）13:00～15:30 参加者 11名
- 7月29日（金）13:00～15:30 参加者 19名

#### ※留学生オープンキャンパス

- 10月26日（水）12:30～14:30 参加者 7名

## ② 参加者数

	6/4	7/10	8/6	8/21	10/29	12/18	R5. 3/12	合計
子ども学科	76	80	135	125	-	30	54	500
キャリア育成学科 オフィスワークコース	16	30	63	41	3	4	11	168
キャリア育成学科 介護福祉コース	6	18 (留学生5名)	23	9	4 (留学生1名)	7 (留学生7名)	10	77
合計	98	128	221	175	7	41	75	745

## ③ 実施スケジュール

13:00～13:30 全体説明会

13:30～終了まで 学科・コース説明会、体験授業、各種相談



## 5 外国人留学生支援について

留学生のビザ更新に関する情報、奨学金など金銭面支援の状況、納税及び社会保険料などの支払いに関する情報、日本語能力検定試験など学習状況について、外国人留学生支援室内での情報の共有を図っています。

### (1) 外国人留学生支援室による在留期間更新の取次申請手続き

9月末までに1年生16名の対応を行い、在留資格更新不許可者を出さずに無事に手続きが行えました。

### (2) 留学生ミーティングの実施

留学生と留学生支援室とのミーティング、ガイダンスを次の日程で実施しました。

4月5日(火)1年生、4月21日(木)1年生、4月26日(火)2年生、

7月26日(火)1・2年生、10月26日(水)1年生、10月27日(木)2年生

### (3) 授業内での日本語支援

介護福祉コースの授業に2人の日本語補助員を配置し、介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評です。更に、日本語能力等向上のための日本語補習講座を実施しています。

【 日本語補助対象授業科目 】

○前期

1年生・・・「心と身体のしくみⅠ」「心と身体のしくみⅡ」「人間発達の理解Ⅰ」

2年生・・・「社会保障」

○後期

1年生・・・「医療的ケアⅠ」「人間発達の理解Ⅱ」

2年生・・・「地域福祉」

【 日本語補助員 】 …… 伊藤由香、前田恵里

(4) 食料品の無料配布

昨年度に引き続き新型コロナウイルスでアルバイトが減っている留学生に対して、青果店で少し古くなったものや教職員の家庭内菜園による米や野菜の無料配布を行い好評を得ました。

### 地域連携施設

#### 高田短期大学 学長公開講座

「えっ！これも仏教用語 — 再発見」【第1回】（全3回）

開催日 9月15日（木）

場 所 2号館2階 大講義室

参加者 58名

講 師 学長 梅林 久高

内 容 日常会話の中で意外と多く使われている、仏教用語がもととなった言葉を紹介しました。表現を豊かにしつつも本来の意味からずれてきたのはなぜか、受講者の皆様にも考えていただきました。



「えっ！これも仏教用語 — 再発見」【第2回】（全3回）

開催日 10月20日（木）

場 所 1号館4階 講堂

参加者 50名

講 師 学長 梅林 久高

内 容 四法印という仏教を特徴づける思想と、それらに関連した用語の現代での使われ方や、用語の由来について解説がありました。受講者の皆様には、日常的に使っている言葉について、より興味をもって考えていただくきっかけになったようです。（本学周辺で採取したシダ類の展示もありました。）



「えっ！これも仏教用語 — 再発見」【第3回】（全3回）

開催日 11月17日（木）

場 所 1号館4階 講堂

参加者 58名

講 師 学長 梅林 久高

内 容 『大菩薩峠』『金色夜叉』『天人五衰』『苦海浄土』など文学のタイトルにみられる仏教用語や古典落語を訪ねてその意味を探りました。受講者の皆様には、著書、筆者作家への興味関心を深めるきっかけとなったようです。

#### みえアカデミックセミナー2022

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ三重県の高教育機関の連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーが毎年開催されております。

本学は次の講座を開講し、51名の受講がありました。

日 時 7月14日（木）13:30～15:15

会 場 三重県総合文化会館1階 レセプションルーム

テ ー マ 「仏教保育・仏教教育の魅力」

講 師 子ども学科 特任講師 松山 智道



## 高田短期大学 公開講座

「音楽と体操とおしゃべりタイム！」

開催日 10月2日(日)

場所 1号館2階 育児文化室

参加者 16名

講師 キャリア育成学科 助教 長谷川 恭子

内容 「心が動けば身体も動く」をテーマに、音楽と体操を組み合わせて、足腰の運動や、のどの嚥下機能を高めるストレッチなどが紹介されました。受講者の皆様には、無理なく楽しく身体機能を高める工夫を学んでいただきました。



## 高田短期大学付属図書館 公開講座

「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」(全4講座)

### 【講座1】「ドナルド・キーン - 日本文学再発見」

開催日 6月22日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 14名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内容 日本文学と出会い、悲しい戦乱の時期を経て、来日し日本文学を世界に紹介したドナルド・キーンさんの足跡をたどりました。いくつかのポイントを挙げて、日本文学への興味を深めていただきました。



### 【講座2】「源氏物語 - 序章」

開催日 9月21日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 15名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内容 限られた時間ではありましたが「源氏物語」の概略を説明しました。「源氏物語」が物語の最高峰と評価されるのはなぜか、「源氏物語」は小説と言えるかなど、受講者の皆様にも考えていただきました。



### 【講座3】「詩をどう読むか」

開催日 10月12日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 15名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内容 吉野弘の詩や井上陽水・中島みゆきの歌詞などを取り上げ、詩とはどういうものか、どうアプローチするかについて考えました。受講者の皆様からは、より深く考えることができた、新しい感覚だった、学生時代を思い出した、などのお声をいただきました。



### 【講座4】「小津安二郎 - 世界の評価」

開催日 11月30日(水)

場所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 15名

講師 図書館司書 瀬古 幸弘



内 容 英国映画雑誌が10年に1度実施する人気投票の時期に合わせて、三重県ゆかりの映画監督の海外における評価について紹介しました。最後に意見交換となり、受講者の皆様からも4回を振り返っての感想や今後のご希望など、活発にご意見をいただきました。

## 仏教教育研究センター

### 研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。そして昨年度に引き続き、令和4年度も補註と解題の完成に向けて作業を進めました。

### 仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会の提供を目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山の高田会館ホールにて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日 時	7月13日(水) 13:30~15:30	受講者	28名
	題 目	聖徳太子への親鸞聖人の讃仰		
	講 師	梅林久高(高田短期大学学長)		
第2回	日 時	10月14日(金) 13:30~15:30	定 員	31名
	題 目	親鸞聖人といなかの人々と和語聖教をめぐって一		
	講 師	佐波 真 研究員(仏教教育研究センター研究員)		

### 仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を以下の日程で学んでいただきました。

日 時	8月22日(月)~8月26日(金) 9:00~17:50			
対 象	寺族及び一般者			
受講料	無料(但し、テキスト代は実費負担)			
教 科 講 師	「仏教学」	栗原 廣海	研究員	(本学前学長)
	「仏教史」	金信 昌樹	研究員	(善昌寺住職)
	「真宗学」	松山 智道	センター長	(本学特任講師)
	「真宗史」	清水谷正尊	研究員	(本学非常勤講師)
	「高田の歴史と法宝物」	新 光晴	研究員	(真宗高田派本山専修寺宝物館主幹)

### 仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を学んでいただくために、以下の日程で年間10回の講座(試験日として11回目あり)を予定していましたが、5月は会場である本山より宗議会使用の申し出があり中止になりました。

なお、この専門講座における講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目(隔年で5科目)を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 程	4月22日(金) —5月27日(金)— 6月24日(金) 7月29日(金)
	9月30日(金) 10月28日(金) 11月25日(金) 12月16日(金)
	1月27日(金) 2月24日(金) 3月3日(金)
	9時00分～17時50分(50分の昼休憩あり)
対 象	寺族および一般(真宗高田派の教学を学びたい方)
受講料	無料(但し、テキスト代は実費負担)
教 科 講 師	「真宗学講読Ⅲ」 佐波 真 研究員 (明通寺住職) 「仏教学講読Ⅰ」 清水谷正尊 研究員 (本学非常勤講師) 「仏教学概説」 安藤 章仁 研究員 (早稲田大学日本宗教文化研究所招聘研究員) 「高田の宗風」 島 義恵 研究員 (聖洞寺住職) 「真宗学講読Ⅰ」 金信 昌樹 研究員 (善昌寺住職)

### 運営委員会の開催状況

#### 【開催日】

第1回 4月5日(火)、第2回 4月19日(火)、第3回 7月22日(金)、  
第4回 11月29日(火)、第5回 令和5年2月14日(火)、  
第6回 令和5年3月13日(月)

#### 【内容】

専門講座について、基礎講座について、令和5年度センター年間行事予定について、  
令和5年度公開講座講師について、センター研究会「研究書」の発行について、  
令和5年度の講座について

### 仏教行事委員会

#### 学内仏教行事の実施(宗祖降誕会・灌仏会・報恩講が地域公開行事)

	新入生本山参詣	宗祖降誕会	灌仏会
開催日	4月2日(土)	5月23日(月)	6月20日(月)
講 師	梅林 久高(本学学長)	松山 智道 (仏教教育研究センター長 ・子ども学科特任講師)	藤善 真裕(本学職員)
参加者	249名	326名(2年の視聴も含む) ※2年生は遠隔視聴	252名(2年の視聴も含む) ※2年生は遠隔視聴

	追弔会	報恩講
開催日	10月17日(月)	12月19日(月)
講 師	清水谷 正尊(本学非常勤講師)	梅林 久高(本学学長)
参加者	246名(2年の視聴含む) ※2年生は遠隔視聴	205名(2年の視聴含む) ※2年生は遠隔視聴

# 育児文化研究センター

## 1. 地域子育て支援事業

### 1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は、津市を中心に子育て家庭の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子が、子ども同士が、親同士がゆったりした雰囲気遊び、ふれあい、交流を深める場として開催しています。昨年度より実施している戸外（森）や学外（新町会館）での開催日を増やし計画しました。まだ認知されていないためか、参加者は少なめです。活動内容はもちろんですが、広報にも力を入れていくことの必要性を感じています。そして、戸外での自然体験のおもしろさ（森）や少人数空間での過ごしやすさ（新町会館）を親子で味わってほしいと考えています。

#### (1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 基本として月曜日 10:00～12:00

場 所 育児文化室・「たかたんフォレスト」・新町会館

参加対象 未就園児とその保護者

令和4年度 59回ひろばを開設し、子どもと保護者を合わせて延べ861名の利用。

#### (2) 子育て講座 ひろば開催日(月1回)にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しました。

講座日	テーマ	講 師	参加者数
5/16(月)	親子で楽しむリズム遊びと手品	稲田 直子	5組
6/20(月)	いろいろおさかなあそび	亀澤 朋恵	10組
7/11(月)	親子でハンドトリートメント&ふれあい遊び	権部 良子	6組
8/18(木)	子どもの心の育ちを支える	山口 昌澄	1組
9/15(木)	知って安心! 「つまると危ないたべものはなし」	長倉 里加	中止
10/17(月)	リズムにのって～親子であそぼ♪♪～	堀内由香里	6組
11/21(月)	親子で楽しもう! ふれあい遊び	小菅千恵子	11組
12/19(月)	楽しく遊ぼうね!	前畑みち代	7組
R5. 1/23(月)	親子で一緒に新聞紙であそぼ	古川久美子	7組
R5. 2/17(金)	子育てが楽しくなる絵本の力	岩附 啓子	7組

#### (3) ひろば関係研修会

○第1回ひろば関係者研修会 「乳幼児の救急蘇生について」

日 時 8月19日(金) 13:00～ 中止

○第2回ひろば関係者研修会 「令和4年度おやこひろばの活動報告と今後の展望について」

日 時 令和5年1月19日(木) 14:00～

場 所 1号館第4会議室

参 加 者 本学教職員・ひろばスタッフ 計8名

#### (4) 「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、ひろば開催日毎にアップをしています。また、プリントアウトして育児文化室前にも掲示しています。

## 2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っています。4月～3月までに7件の相談利用がありました。

## II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

### 1. 定例研究会（年3回）

第1回 第61回定例研究会 7月5日（火）16:30～（第4会議室） 参加者19名  
研究報告 大西 眞純 研究員 「スリランカ保育について」

第2回 第62回定例研究会 10月27日（木）16:30～（図書館） 参加者17名  
研究報告 グループ研究 「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」

第3回 第63回定例研究会 令和5年2月6日（月）16:30～（第4会議室）参加者19名  
研究報告 前畑 みち代 研究員、藤重 育子 研究員  
「時代の変化にともなう育児や保育に関する研究～自分の子育て、今の子育て」

### 2. グループ研究会

グループ研究①「子育て支援のひろばについて」（4名）	開催回数：5回
グループ研究②「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」（5名）	開催回数：4回
グループ研究③「野外体験保育とこれからの保育者養成」（8名）	開催回数：2回
グループ研究④「子どもの基本的な生活習慣と育児」（6名）	開催回数：6回
グループ研究⑤「子どもと絵本」（3名）	開催回数：3回

## III. 学生支援事業

### 1. 地域保育関連の学生ボランティア活動支援「子育て応援隊活動」

外部から学生へボランティア募集があれば、学内新型コロナウイルス対策委員会に対して「行事実施計画書（感染症対策関連）」を提出し、許可が出たものについて、学生に募集を行いました。今年度は76名の学生が地域の活動に参加しました。

### 2. おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

保育や子育て支援を学ぶ目的のサークル「たんたんクラブ」は発足5年目となりました。授業と重ならないように自分たちで日を調整し、ファミリーデーには夏祭りごっこを実践したり、3月には「手作りおもちゃ」「ゲームコーナー」「手作りプレゼント」などの活動を行いました。



## IV. 広報物及び研究成果の発行

### 1. センターたより「いくぶん」第27号

8月末に発行しました。

### 2. 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第18号（令和5年3月発行）

執筆希望者を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文4編、実践報告1編、文献紹介2編と定例研究会での研究報告要旨、5つのグループ研究会の活動報告等を掲載しました。

種別	テ - マ	執筆者
研究論文	保育者養成課程における自然体験実習の意味について (2) ～ 保育の場における「自然に親しむ」保育の実態と実践から ～	河崎道夫
研究論文	祖父母世代が子育て・孫世代に与える影響について ～ 保育士を対象とした調査から ～	榎原尉津子・杉山佳菜子 ・小川真由子
研究論文	デジタル絵本の捉え方と今後の扱い方に関する研究	藤重育子・川戸良子
研究論文	親子を対象とした地元の木材による楽器作りと音遊びの取り組みと課題 ～ 三重県産ヒノキによるクラベス作りをもとに ～	山本敦子
実践報告	コロナ禍における子育て支援に関する研究	福西朋子・青木信子・長倉里加 ・金森まさ子・権部良子
文献紹介	地域における孫育ての取り組み ～ 地域子育て支援拠点の構築に向けて ～	青木信子
文献紹介	保育者におけるデジタル絵本の認識に関する調査研究	前畑みち代・藤重育子

### 3. 子育て情報発信

「情報誌きらきら」（隔月発行：年6回）の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てをはじめましょ」への子育て情報を掲載。

掲載 Vol	掲載号 2年	発行日	広場・相談 掲載日程	テーマ（担当）	
				子育てアドバイス	おやこひろば より （ひろばスタッフ）
68	5・6月	5/21(土)	6・7月	小学校高学年における教科担任制について（寶来）	梅雨の季節 遊びと健康
69	7・8月	7/9(土)	8・9月	食前の「いただきます」（松山）	子どもと一緒にのお出かけは、楽しく安全に！～水辺での笑顔を守る～
70	9・10月	9/25(日)	10・11月	続・赤ちゃんへの話しかけと歌いかけ（山本）	子育てファミリーの防災対策
71	11・12月	11/26(土)	12・1月	絵本を楽しむ（金森）	秋の自然を全身で感じよう！
72	1・2月	R5. 1/25(水)	2・3月	子どもの「イヤ」に向き合う（中嶋）	心穏やかに春を迎える
73	3・4月	R5. 3/25(土)	4・5月	チームで子育て（河内）	春と子どもと心の準備

## V. 地域連携事業

### 1. みえ次世代育成応援ネットワーク

みえ次世代育成応援ネットワークに運営委員として参画し、県行政と地元企業や地域子育て団体と連携し、子育て支援活動事業に取り組みました。

「みえの子ども応援プロジェクト」ありがとうの一行詩コンクールには多くの学生が応募し、2月に開催された「子ども応援！わくわくフェスタ」には企画運営に協力しました。

### 2. みえこどもの城連携協定による事業

「伊勢茶を楽しん茶お！」 9月 4日（日）

「たかたん あそびひろば」 12月17日（土）、令和5年1月21日（土）

### 3. 地域啓発事業 主催講演会

「身近な自然を活かした保育実践から ～環境・人とつながって育つ～」

講 師 松本 信吾先生（岐阜聖徳学園大学 教授）  
日 時 5月28日（土） 14：00～16：00  
場 所 高田短期大学 カフェテリアおよび森のひろば  
参加対象者 保育関係者・学生（主催・共催側を含めて41名参加）  
※感染対策上参加対象を限定したため、関心のある地域  
関係機関にも内容を視聴できるように動画視聴の案内  
をしました。



## VI. 津市委託事業

### 1. ホッとひろば事業

乳幼児を子育て中の親を対象として、ほんのひととき子どもから離れてホッとできる時間に、子育て中の親同志が交流できる場を4回実施しました。

講 師 橋本 景子（高田短期大学 非常勤講師）  
第 1 回 8月23日（火） 10：00～12：00 参加者2名 託児4名  
第 2 回 9月30日（金） 10：00～12：00 参加者2名（※学童保護者対象）  
第 3 回 12月 3日（土） 10：00～12：00 参加者6名 託児9名  
第 4 回 令和5年2月26日（日） 10：00～12：00 参加者6名 託児8名

## キャリア研究センター

### 1. 地域連携事業

#### (1) 「津市」「一身田商工振興会」との連携・協力事業

「一身田寺内町マップ」の作成、報告会の開催、配布

キャリア研究センターでは津市、一身田商工振興会と連携して、一身田寺内町の活性化に取り組んでいます。

その一環として、キャリア育成学科オフィスワークコース中畑ゼミの学生が「一身田寺内町マップ」の作成に取り組みました。一身田寺内町マップの案につき、一身田商工振興会、津市、一身田寺内町の館、一身田寺内町ほっとガイド会の方々を招き、6月16日（木）に報告会を開催し、ご意見や提案をいただきました。

報告会でのご意見や提案を踏まえて、完成させた一身田寺内町マップを7月17日（日）に一身田寺内町への来訪者に配布し、協力していただけるお店に配置しました。また、三重県観光連盟、津市観光協会、JR津駅、近鉄津駅にも置かせていただきました。JRからは秋に計画しているウォーキングイベントで使いたいとの反応もいただきました。



「一身田商工振興会Instagram」による情報発信

令和2年度より、一身田商工振興会のInstagramへの高田短大生による記事・写真の投稿を、ボランティア学生を募り行っています。

フォロワーも徐々に増え、地域の団体や地域の名店などのフォローが多くなっておりま



### 「ISE 芋でつながろう2021」プロジェクト

高田会館・和菓子店春乃舎よりの依頼を受け、オフィスワークコースの川喜田ゼミ2年生がゼミ内で様々なアイデアを練り、両店と打ち合わせを重ねて和菓子「サンジノイセイモ」を完成させました。この商品PRと販売活動を「親鸞聖人降誕会・お待ち受け法会」でのイベント「高田会館物産展（5月21日（土）・22日（日））」においてに行い、プロジェクトの成果を地域の方にお披露目できる良い機会となりました。

その甲斐もあって、2日間で600個を完売。伊勢新聞からも取材を受けました。その後も高田会館様からは「よく売れています」との嬉しい報告をいただいています。



### (2) 三重県信用保証協会との連携事業

三重県信用保証協会と高田短期大学は地域への貢献、産業人材の育成、産業振興、創業・起業支援に寄与することを目的に連携協定を結んでいます。産業人材の育成、創業・起業支援の活動の一環として、オフィスワークコース2年生のビジネス実務論の講義の中でお話を頂いています。今回は三重県信用保証協会の企画調整課浦田主査にお越しいただき、「企業経営の原則とお金の関わりについて」と題して、7月5日（火）にお話をいただきました。



### (3) 湯元榊原館との連携協定締結、連携事業

#### 「湯元榊原館との連携協定締結」

榊原温泉の老舗旅館、湯元榊原館との連携協定を9月30日（金）に締結しました。

協定の目的は「地域の活性化、地域を支える人材の育成、学生の実践的教育における重要なパートナーとして、相互に連携協力することにより、地域の発展、人材の育成に資すること」としており、榊原温泉地域の活性化や高田短期大学とその学生の調査・研究、教育に資する活動を行っています。この連携の高田短期大学側の窓口を、キャリア研究センターが担うこととなりました。締結式は中日新聞、ZTVなどでも報道され、本学の地域貢献活動のアピールにもなったと考えます。

まずは本学の学生が榊原地域を知ることから始め、学生の感性を活かした提案や情報発信への参加など、榊原温泉地域の活性化につながる活動を行っていきたいと考えます。また、湯元榊原館、榊原温泉地域をフィールドとする学生の自主的な学び、社会と関わる実践的活動の場としていきたいと考えます。



#### 「湯元榊原館湯の庄利用者アンケートの実施」

湯元榊原館の日帰り温泉施設「湯の庄」改装検討のための利用者アンケート調査を、ボランティア学生を募り実施しました。アンケート項目の検討、調査票作成、集計結果の見方などにつき本学教員がサポートを行いました。

アンケート調査には延べ16人のボランティア学生が参加、500枚近くのアンケートを回収しました。「学生さん達の姿勢も声掛けも大変良く、湯の庄の休憩室が明るくなった」と、同館より感謝の言葉もいただきました。また、伊勢新聞でこの活動は報道されました。



#### (4) 百五銀行・百五総合研究所との連携事業

就業支援セミナー「売れていくをつくる！マーケティングの基礎と考え方講座」を開催予定

令和5年2月16日（木）に、百五銀行、百五総合研究所との連携事業として開催し、21名の参加（申し込みは定員の24名）がありました。マーケティングは公開講座では新規のテーマです。

講師はキャリア研究センター長中畑裕之が務め、マーケティング・マーケティング担当者の役割は何か、基本的なマーケティングの概念やツールについて、また、ブランド戦略などについてお話ししました。その上で、自社の顧客（ターゲット）は誰なのか、自社の4つのP（製品、価格、販路、プロモーション）はその顧客に対して適切なのかについて、参加者の方にそれぞれ考えていただきました。

参加者アンケートでは回答者20名中「大変満足」7名、「まあまあ満足」8名、「普通」4名、「やや不満」1名でした。参加者は上場企業から街の個人商店まで規模も業種もバラエティーに富んでおり、より高度な内容を期待してこられた参加者もいたと思われます。



## 2. 公開セミナーの開催

### (1) 就業支援セミナー「クレーム対応基礎講座」を開催しました

「クレーム対応基礎講座」を8月17日（水）に開催いたしました。参加者は11名で、一般企業の方だけでなく行政機関の方が今回は多く参加されました。講師はキャリア支援センター研究員であり、株式会社WillStaff代表取締役でもある長谷川聡子研究員が務めました。

参加者アンケートでは「大変満足」8名、「まあまあ満足」3名で、全員が満足の回答でした。また、自由記述では「今後の仕事に活かせる」などの肯定的な意見を多くいただきました。



## 介護福祉研究センター

### 1. 研究活動

#### 1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々や卒業生を研究員に招き、2022年9月現在49名（内卒業生22名）の研究員が在籍しています。年間4回の定例研究会を開催し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっています。場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

#### 1) 第48回定例研究会 6月21日（火）17:40～19:30 参加者 16名

- ・テーマ「地域包括支援センターの現状と課題ー亀山市における実践を通してー」
- ・発表者：山下 千晶 研究員
- ・内容： 精神保健福祉士・社会福祉士・公認心理士の有資格者である山下千晶研究員に、現在お勤めの社会福祉法人安全福祉会 亀山第2地域包括支援センターもくれんについての実践を通したお話をいただきました。亀山市の高齢化率から地域包括ケアが求められる背景、権利擁護の実態など、非常に興味深いお話でした。

今後、日本の高齢化や人口減少など様々な課題に対し、地域包括ケアシステムがどうあるべきか、また、高齢者の精神的な不調を察知できる体制づくりなどの課題を考える機会となりました。

2) 第49回定例研究会 9月12日(月) 11:30~14:30 参加者 17名

- ・テーマ「聖マッテヤ心豊苑の紹介、介護福祉士としての仕事の現状など」
- ・発表者：北川 なみ (本学卒業生)

- ・内容： カフェテリアでの軽食の後、介護棟へ移動し、障害者支援施設 聖マッテヤ心豊苑 療護グループサブリーダーの北川なみさんから聖マッテヤ心豊苑の取り組みについてお話をいただきました。職員対象の腰痛検査の実施、新型コロナウイルス感染拡大防止策、介護職員による医的ケア、福祉用具の取り扱い、コロナ禍での年間行事の工夫、夜間に利用者の安全を守る眠りスキンの活用、スヌーズレンでの活動などの特徴的な取り組みについてのお話がありました。意見交換では様々な質問が寄せられ、腰痛検査の方法や目的、スヌーズレンの対象になる方の選び方、福祉用具の取扱いは現場でないと分からないことがあるので学校では基本的なことを押さえるのが大切であるということの補足が講師からありました。



今回は、津市障がい福祉課主幹の堀川氏にもご出席をいただきました。津市の障害者入所施設は増えていないが障害者は増えているため待機者も多いこと、入所施設は障害者の「終の棲家」として想定されておらず国は地域移行を推奨しておりグループホームを増やす方向である。現在、津市には重度訪問介護のサービスを受けながら16名の障害者が在宅でひとり暮らしをされているとの状況もお聞きしました。本学については、介護福祉研究センター定例研究会が今回で49回となり多く開催してきたことに興味をもっていただきました。また、介護福祉コースでは1,850時間のカリキュラムがあり学生は一生懸命学んでいることを知っていただいたため知的障害・身体障害それぞれの知識をもつ人を育てていっていただければとのお話をいただきました。

3) 第50回定例研究会 11月30日(水) 17:00~18:30 参加者13名

- ・テーマ「子どもと職員の育ちあいー障害児通所支援事業所での実践からー」
- ・発表者：中嶋 麻衣 研究員

- ・内容： 本学子ども学科助教である中嶋麻衣先生は、今年度から本学に着任され、昨年度までは2か所の障害児通所支援事業所に9年間勤務されておりました。この9年間の実践を振り返り子どもたちと関わるうえで、支援する側は先生ではなく、子どもたちや保護者の伴走者として子どもの発達に関わっていくことが大切であること、また、子どもや保護者の思いやニーズに沿った支援をすることや子どもたちが様々なことを経験できる場にしていくことが求められるとお話がありました。



今後の展望として、県内の発達支援がどのように整備されてきたのか、子どもにとっての発達支援の意義等について研究していきたいとのことでした。

4) 第51回定例研究会 令和5年2月16日(木) 17:00~19:00 参加者 11名

- ・テーマ「精神科病院 デイケアでの地域生活支援実践報告」
- ・発表者：平田 育代研究員

- ・内容： 介護福祉士、精神保健福祉士である平田育代研究員よりお話をいただきました。20代から入退院を繰り返してきた統合失調症の女性の支援担当となり、退院から自宅での



支援、その後の経過報告を退院1年後の様子までまとめてご報告いただきました。

精神障害者の生きづらさを理解することは、支援者の想像をはるかに超えていたことが関わりを通してわかったこと。長期間の関りの中で、その人の生きづらさや課題が少しずつ浮き彫りになってきたことに感動したと話されていました。私たちの当たり前が当たり前であることの難しさを知ることで、それがすべての人々の理解に繋がってほしいとお話されていました。

## II. 実施事業

### 1. 介護福祉セミナー

#### 1) 介護福祉セミナー

12月18日(日) 13:30~15:30 参加者 25名  
テーマ「ミュージックセラピー～聴いて感じて、リフレッシュ～」  
講師：長谷川 恭子 研究員、杉本 佳代 (ソプラノ歌手)

長谷川研究員からミュージックセラピーについて講義を受け、トーンチャイムという楽器を使い、一人ひとりが自分の音を担当しながらグループ全員で音楽を奏でる体験を楽しく行いました。また、ソプラノ歌手の杉本さんからはクリスマスにちなんだ生歌をご披露いただいたり、エッグシェーカー等を用いて参加者と合唱したりと心が癒されリフレッシュしながら学べ、あっという間の2時間でした。



### 2. 全国障害者問題研究会 東海ブロック研究集会 in M I E

令和5年3月18日(土) 9:00~16:00 本部会場：高田短期大学  
ZOOMによるオンライン同時双方型開催を実施。当日申込者50名

大会実行委員長である松山和幸氏、本学の梅林久高学長による挨拶に始まり、基調提案を全国障害者問題研究会三重支部長である千草篤磨氏が行ったあと、記念講演「目からウロコの実践の視点～子どもの発達と障害を学ぶ～」と題して赤木和重氏(神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授)が講師として登壇しました。

研究報告が辻和美氏(特別支援学校聖母の家学園)からあり、その後、文化行事ビデオ構成{もっと豊かに生きていきたい～わたしたちのねがい・思い～}が行われました。

午後は、「就学前」「学齢期」「青年・成人期」の3つの分科会に分かれ、話題提供や討議が行われました。本センターの中川センター長、川喜田研究員、寺家研究員も運営に加わり、主にZOOM環境の整備やスムーズな大会進行に協力しました。

## III. 介護のみらいを考えよう～あなたの思いやりを言葉にしてみよう～作文コンクール

高田短期大学主催事業である、第3回(令和4年度)介護のみらいを考えよう～あなたの思いやりを言葉にしてみよう～作文コンクールの企画運営協力を行いました。第2回文集を作成し、第3回作文コンクールの募集を県内小中学生向けに行う際に連携協定市を中心に県内介護福祉施設等、各関係機関へ配布し広報しています。第3回は、令和4年9月15日の募集終了までに690作品(小学生200名、中学生490名)の応募がありました。

対象者：三重県内の小学校に通う5・6年生および中学生

表彰式：11月12日(土) 10:30~11:30開催

※最優秀賞と優秀賞は、介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第9号に掲載



### 第3回介護作文コンクール表彰式

11月12日（土）、三重県社会福祉協議会会長、三重県老人福祉施設協会会長を来賓に迎え、本学講堂にて表彰式が開催されました。

式典では、最優秀賞をはじめ5名の受賞者に朗読披露していただきました。その様子は、夕方の三重テレビ放送ニュースで放映されました。



## IV. 研究成果の発行

### 1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第9号（令和5年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文1編、実践報告3編に原稿依頼しました。

高田短期大学介護・福祉研究第9号執筆依頼一覧

\*掲載順は各種別順

種別	テ マ	執筆者	頁
研究論文	介護実習でのレクリエーション実践及び介護福祉士養成校に求められる知識・技術	長谷川恭子	10
実践報告	認知症高齢者への介護実践（1） ～関わり続けることの意義～	千草 篤磨 出馬 宏海 中村 匠 前田 彩	10
実践報告	精神科病院 デイケアでの地域生活支援 実践報告	平田 育代	10
実践報告	高齢者と同居するひきこもりの子への支援とその課題 ～ 地域包括支援センターにおける活動を通して ～	山下 千晶	5

## その他のボランティア活動

本学の教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動プログラムを組み実践させることへの取り組みをしています。本年は一昨年度に続き、新型コロナウイルスの影響を受け、感染防止対策面から、従来の活動を大幅に見直したため、オフィスワークコースのボランティア実践履修生、ボランティア、国際交流部員の応募者を中心編成されたチームでの活動となりました。

三重県教育委員会が推進する「高等教育機関の専門的な知識や技能を生かす教育プログラム」、特に、鈴鹿市立白子公民館実践定期講座、名張市蔵持市民センター事業等に講師役の学生を派遣する事業には積極的に取り組むことができました。

また、全国的にも注目されるユニークな活動である三重県警察本部との協働プログラム、サイバー犯罪被害防止活動では、公民館講座をとおして高齢者向けスマホ教室を実施する中で、メール攻撃への防御法などの広報活動を入れて取り組んでいます。参加延べ人数は計159名となりました。



## 学内施設設備の整備事業の実績

### 高田短期大学 1号館空調設置工事

施行业者 : 藤原工業株式会社  
施工場所 : 1号館各教室・学長室・研究室・事務局・  
学長応接室・応接室・会議室・留学生支援室  
施行費用 : 31,664,592円  
施工時期 : 8月～10月



### 高田短期大学 学務システム更新

依頼業者 : 株式会社電翔  
更新場所 : 学内全体のサーバー  
更新費用 : 28,600,000円  
更新時期 : 令和5年3月



### 【命の大切さを考える教育の推進】

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨に努め、広い視野から社会貢献できる人間の養成を目指した教育を実践しています。

月1回の本山参詣や週1時間の一般仏教の授業及び校外宿泊学習での平和学習等において自他共にかげがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づけるよう努めています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。いじめ・体罰・ハラスメントについては、学期毎にアンケート調査を実施しています。

また、本山参詣で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション能力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養しています。



### 人権教育研修の推進

本校は、宗祖親鸞聖人の教えを建学の精神として、宗教的情操を養い、互いの人格・人権を尊重できる人物の育成に努めています。生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ、自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを具体的な目標として人権教育を実施しています。

生徒に対する人権教育については、各クラスでのLHRなどを通じて、身近な人権課題を考える機会をつくり、日ごろから人権を意識するように努めています。そして、学年ごとに人権テーマを設定して、学年人権LHRを実施します。

文化祭での人権展示については、高III 6年・高I 4年、中2年、中1年はテーマに従った人権メッセージを全員が作成して、文化祭で展示発表しました。今年度のテーマは「戦争で苦しんでいる人々がいる今の世界で、一人一人の人権が守られるために私たちにできること。」でした。また、高II 5年、中3年は校外宿泊学習における平和学習の事前学習をまとめました。

12月の2学期末考査後に、高校は学年別で、中学校は全体で、学年人権LHRとして人権講演会を実施しました。高III 6年は、「社会へ羽ばたくみなさんへー“わたし”らしく生きるを考えるー」と題して本江優子さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。高II 5年は、「自分の立つ位置は？一部落問題を自分事にするためにー」と題して原田朋記さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。高I 4年は、「インターネットと人権」と題して中村尚生さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。中学校でも、「インターネットと人権」と題して中村尚生さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。地域の人権活動として、

栗真小学校で開催された一身田中学校区子ども人権フォーラムと一身田中学校で開催された一身田中学校区人権フェスティバルに、中学校生徒会が参加しました。

教職員に対する人権研修については、人権教育推進担当を中心に研修会へ積極的に参加して成果を職員会議などで還元しています。特に今年度は校内人権教育推進委員会対象のフィールドワークに替えて、以下の研修会に参加しました。

○三重県主催

7月23日(日) 第1回県民人権講座 企業経営と人権

○三重県私学振興会主催

8月25日(月) 人権教育研修会 三重の人権教育の現状と課題

○三重県教育委員会主催

8月4日(木) 人権教育ガイドライン・サポートブック活用講座

人権学習指導資料等活用講座「子どもの人権」「女性の人権」

8月5日(金) 人権学習指導資料等活用講座「障がい者の人権」「部落問題」

8月19日(金) 人権学習指導資料等活用講座「様々な人権問題」「外国人の人権」

○津人教一身田支部主催

8月5日(金) 一身田中学校区人権研修

「部落史観の転換と被差別民衆が担ってきた社会的役割」

○中勢地区高校生人権活動交流会主催

8月19日(金) 第6回人権広場のヒューリアみえ松村元樹さんによる講演会

「無関心でいられても無関係ではられない人権問題」

また、8月19日(金)に高田学苑教職員人権研修として、「今こそ問われるハンセン病の教訓～コロナ禍で考える差別～」と題して、三重テレビ放送報道制作局長の小川秀幸さんによる講演会を行いました。コロナウイルス感染拡大により2年実施を見送り、ようやくの開催になりました。さらに例年8月に実施していたフィールドワークに代えて、7月と8月に人権教育推進委員会の先生方が各種の人権研修会に参加しました。3月10日(金)から17日(金)を人権ウィークとして期間中に全教員が「人権に関する授業」を実施しました。各授業担当の先生方から、独自の視点で人権に関する授業を行い、生徒が人権について学ぶだけでなく、教職員も人権について考える機会となりました。

人権感覚を磨くことは今の自分を見つめ直すことであり、他人任せにすることでは身に付きません。様々な課題を抱える厳しい現代社会の中でいかに生きるかを模索し、今後も地域や家庭と連携を取りながら人権教育を着実に進めていきたいと考えています。



## 【きめ細やかな学習指導の推進】

生徒に寄り添った親身の指導という点において、生徒や保護者の方々から高い評価を頂戴しています。その期待に添うように個々の生徒の学力や学習進度、到達度に応じた綿密な指導を行うとともに、学習面のみならず個々の生徒の環境や状況、特質や個性を鑑みた総合的な指導を心がけています。各教科の授業は年間指導計画に基づき実践されるのは勿論のこと、S H Rや放課後の小テスト、補講、夏期講習などの時間を設定し、通常の授業では導入しにくい反復学習や発展的学習の機会を多く取り入れています。また、考査後に個別懇談、一学期末には保護者を交えた三者懇談などを行い、生活指導も含めた学習指導や進路実現のためのサポートの充実を図っています。そのために中学校は学力推移調査、高等学校はスタディ・サポートを導入しより精緻な指導を目指します。さらに、夏季休業中においても、各学年で工夫したセミナー等を実施し、苦手な分野の克服やキャリア教育の充実に努めています。こういった活動は生徒の内面的成長と自己実現に有意義な成果をもたらすと考えます。生徒を取り巻く環境が多様に変化を重ねる昨今、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の数は増加の一途を辿っています。これに即応するため、本校では教育支援委員会、生徒指導部、各学年、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、カウンセラーが連携して保護者や生徒の心理的負担を軽減できるよう心身のケアに努めています。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症も収束とまではいかないものの、徐々に学校現場における規制も緩和され、令和5年5月8日以降感染症レベルが5類に引き下げられることから、今まで停止、中止されていた生徒の実体験すべき様々な活動が実施されていくことが期待されます。生徒が安心して充実した学校生活が送れるよう、さらなる創造と工夫を重ね、生徒の自己実現を目指した教育を実践していきたいと考えています。

## 【ICT教育とアクティブラーニング対策の推進】

令和3年度より、中学1年生（58期生）に一人1台の端末を導入し、本年度よりⅢ年コースの高校1年生、6年コースの中学1年生に対し、令和3年度と同様に一人1台の端末導入を実施しました。端末はiPadの64GBセルラーモデルを学校から貸与する形式です。他の上級学年では、BYODで教育活動を行っています。教育用アプリケーションは主に、ClassiとGoogle Workspace for Educationを活用し、コラボレーションの促進、指導の効率化、学習環境のセキュリティ確保の実現を目指しています。また、ドライブを利用して、授業や部活動で資料共有や動画共有を行っています。Classiでは学習記録の蓄積、アンケート、ポートフォリオの蓄積などに活用し、さらに保護者とのコミュニケーションツールとしても使用し、保護者からの欠席連絡、学年や担任から保護者への連絡などを容易に行うことができます。Ⅲ年コースでは、学習補助教材としてスタディサプリおよびスタディサプリイングリッシュを導入し、基礎学力の定着に活用しています。iPadを利用した学習は、リモートによるグループ研究、校外活動などの場で有効に機能し、生徒の学習意欲の向上に繋がっています。電子黒板を活用した授業では、日々教員間で利用に関する工夫と改善が行われ、図やグラフ、動画、資料、教科書などを補助教材として積極的に利用するとともに、板書は従来通り黒板にまとめるという形式が定着しています。また、NTTのビジネスチャットであるeIganaを導入しており教員間のコミュニケーションツールとして有効に機能しています。



令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大を懸念し、アクティブラーニングの機能的な活用には、まだまだいたっていませんでしたが、マスクとフェイスシールドを併用したり、距離を取ったりするなどして可能な限りの実施をしました。

## 【キャリア教育の推進】

生徒が育つ社会環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。加えて産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。こうした状況下で、変化を恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきています。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり、社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。

### 進路・職業観を考える学習会等

	鈴鹿医療科学大学連携講座	進路ガイダンス
対 象	高1・11年	高1・11年
内 容	薬学・看護・医療技術学部関係者による医療系学部の現状説明	①大学・短大・専門学校の個別相談会 ②大学学部分野別進路相談会
実施日	12月22日(木)	①12月9日(金) ②令和5年3月16日(木)
	皇學館大学連携講座	進路ガイダンス
対 象	高1・11・111年	高1・11・111年
内 容	①文学部・現代日本学部の教員による出張講義 ②皇學館大学訪問 (講義・キャンパスツアー)	①三重大学各学部の教員による出張講義 ②名古屋市立大学薬学部・総合理工学部・人文社会学部教員による出張講義
実施日	① 7月・9月に複数回 ② 8月2日(火)	①7月・8月に複数回 ②10月・11月に複数回



### 4年生キャリア研修

上述のキャリア教育の方針に基づく取り組みとして、例年、夏季休業中を利用し、4年生を対象に東京キャリア宿泊学習を実施しています。例年であれば東京に赴き、多くの本校卒業生の皆様にご助力をいただきながら、大学見学や企業訪問を実施するところが本研修の主目的ですが、新型コロナウイルスの長引く影響により、昨年度と同様、高田高等学校でオンラインを利用して、7月27日(水)・28日(木)・29日(金)の3日間で下記の3つのプログラムを実施しました。

- ① 『SDGs+大学選び』 各大学のSDGsに向けたさまざまな取り組みを知ること、学び主体の、より良い大学選びにつなげる。
- ② 『CASプログラム（キャリア開発）』 職業に対する意識を理解し、働く理由を考える。社会人とのコミュニケーションを通して、職業観・勤労観を学ぶ。
- ③ 『日経から学ぶ探究学習プログラム』 探究学習の基礎となるスキルを学ぶ。社会課題を自分ごととして考えることで、より深い学びにつなげる。

東京キャリア研修の代わりに行った取り組みでしたが、昨年と同様、内容が充実しており、「生徒の視野を広げる。進路意識を高める。」という当初の目的を十分果たすことができました。

最初のプログラム「SDGs+大学選び」では、同じSDGsの目的に対して各大学・各学部学科が様々な取り組みを行っていることを知ることで、あるテーマに対して多面的・多角的にアプローチできることを生徒に理解させることができました。また、各大学のSDGsの取り組みを大学選びの基準にするということを知り、生徒の視野も広がりました。

「CASプログラムOnline」では、海外勤務経験や起業経験など様々な背景のある社会人5名にリモートでお話しいただき、熱心に聞き入る生徒たちの姿が見られました。スライドや動画によって「将来の働き方」について具体的にイメージすることができ、さらに多種多様な考えを知り、生徒は自分自身について段階的に分析・理解し、働く上での自分の軸が何かを見いだすことができました。

「日経から学ぶ探究学習プログラム」では、新聞の読み方から始まり、新聞記事の背景を考えたり、新聞記事を「自分ごと」としてとらえたりすることで、生徒が社会との関わりに目を向けることができました。

この研修を経て、生徒の雰囲気・意識に変化が見られました。オンラインで行われましたが、社会人の方に積極的に質問する生徒が多く見られました。また、自分のやりたいことを多面的に見つめ直し、文理にとらわれず進路について考えるようになった生徒も増えました。主体的に取り組む生徒が多くなり、生徒の進路意識の高まりを実感しました。

文理選択を控えた4年生にとって、将来のことを考える大変有意義な研修となりました。



### 比叡山校外宿泊学習

本年度は、中学1年と中学2年が中学校の伝統行事である比叡山校外宿泊学習に参加しました。コロナ禍の為、両学年とも昨年度と同様、2泊3日から1泊2日に変更し、a b c組とd e組の2班に分けて実施しました。

行程は同じで、初日に横川（横川中堂・恵心堂・四季講堂）、西塔（浄土院・釈迦堂）を参拝しました。生徒達は諸堂での説明に熱心に耳を傾けました。二日目は、早朝6時に根本中堂を参拝、読経と講話を拝聴しました。厳粛な雰囲気の中、仏教の世界と向き合いました。その後東塔（阿弥陀堂・大講堂・戒壇院）と急な山道を下った先にある無動寺谷（大乘院）を参拝し、講話を拝聴しました。中学1年d e組は二日目の天候の悪化が予想されたために、急遽初日に無動寺谷を訪れることに変更し、なんとか全ての御堂を参詣することができました。



- ② 文化学科アメリカ研究（言語学）松岡 幹就 教授  
 「日本語と英語を通して見る人間言語の文法の共通性」  
 7月4日（月） 15:40～17:40  
 高田高校本館3階社会科教室 高5年 19名  
 7月11日（月） 15:30～17:30  
 高田高校本館4階大選択教室 高4年 46名



- ③ 文化学科アメリカ研究（アメリカ史）森脇 由美子 教授  
 「史料からアメリカ社会を探る」  
 7月11日（月） 15:15～18:15  
 高田高校本館3階大会議室 高4年 41名・高11年 6名



- ④ 文化学科アメリカ研究 中川 正 教授  
 「社会の法則を探る」  
 7月12日（火） 15:30～17:30  
 高田高校2号館3階東選択教室 高4年 50名  
 7月29日（金） 9:00～16:00  
 高田高校本館3階大会議室 高1年 54名



#### 教育学部

- ⑤ 国語教育日本近現代文学 和田 崇准 教授  
 「近現代の文学作品を読み比べ精読する」  
 7月12日（火） 15:30～17:10  
 高田高校本館3階大会議室 高4年 58名



#### 工学部

- ⑥ 工学研究科電気電子工学専攻（電気システム工学）駒田 諭 教授  
 工学研究科電気電子工学専攻（電気システム工学）山村 直紀 准教授  
 「レゴを使ったロボットプログラミング」  
 事前学習：7月15日（金） 13:30～14:30  
 高田高校3号館3階物理室 高4年 20名・高1年 10名  
 実験実習：7月25日（月） 9:30～16:00  
 三重大学三翠ホール内小ホール 高4年 20名・高1年 10名



- ⑦ 工学研究科物理工学専攻（ナノ工学）藤原 裕司 准教授  
 「物理基礎実験」  
 8月3日（水） 13:00～16:00  
 三重大学総合研究棟1 1階実験室 高11年 7名



- ⑧ 工学研究科物理工学専攻（ナノ工学）藤原 裕司 准教授  
 「磁石の話」  
 8月8日（月） 13：00～16：00  
 三重大学工学部10番教室 高5年 34名・高3年 2名



#### 生物資源学部

- ⑨ 生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学）稲垣 穰 教授  
 「ウイルス感染の仕組み」  
 7月14日（木） 13：30～15：00  
 高田高校本館5階講堂 高4年 109名



- ⑩ 生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学）荻田 修一 教授  
 「PCRによるDNAの増幅実験」  
 8月18日（木） 12：30～16：30  
 三重大学生物資源学部2階実験室 高5年8名・高11年8名



- ⑪ 生物資源学研究科生命科学専攻（生命機能化学）三宅 英雄 准教授  
 「光るタンパク質を調べよう」  
 8月22日（月） 10：30～16：00  
 三重大学生物資源学部2階実験室



- ⑫ 生物資源学研究科共生環境学専攻（地球環境学）飯島 慈裕 教授  
 「地域の防災・減災」  
 7月15日（金） 14：00～17：00  
 高田高校本館3階大会議室  
 高1年 9名・高4年 37名・高11年 4名



- ⑬ 紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター 三島 隆准 教授  
 「三重大学農場実習」  
 7月25日（月） 9：00～15：00  
 7月26日（火） 9：00～15：00  
 三重大学附帯施設農場 高11年 6名



#### 医学部附属病院

- ⑭ 救命救急センター 今井 寛 教授  
 「三重県の救急医療について」  
 7月8日（金） 15：40～17：10  
 高田高校本館5階視聴覚室 高6年 1名・高5年 95名



#### 高等教育デザイン・推進機構

- ⑮ 全学共通教育センター 太城 康良 教授  
 「学医療を支える解剖生理学」  
 7月14日（木） 13：30～15：30  
 高田高校本館3階大会議室 高1年 19名・高4年 33名



- ⑩ アドミッションセンター 宮下 伊吉 准教授  
「見つけよう、自分にあった学問分野」  
7月19日(火) 14:00~15:00  
高田高校社会科教室 高1年 35名

【皇學館大学】

○出前授業

- ① 文学部コミュニケーション学科 Christopher Mayo 教授  
「日本史で英語を話してみる。」  
7月8日(金) 15:30~17:00  
本館3階社会科教室 高11年 14名・高1年 16名

- ② 文学部コミュニケーション学科 高沢 佳司 准教授  
「思考のクセ、かたよりをほぐしたい時は」  
9月28日(水) 15:50~17:00  
本館3階社会科教室 高1年 23名



- ③ 文学部国史学科 松浦 光修 教授  
「天才・本居宣長の勉強法」  
9月30日(金) 15:40~17:00  
本館3階社会科教室 高1年 27名



○皇學館大学ミニオープンキャンパス

8月2日(火)

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 10:30       | 大学集合             |
| 10:30~11:30 | ※模擬授業(希望で1講座を受講) |
| 11:30~12:10 | 昼食休憩             |
| 12:20~13:00 | 大学説明             |
| 13:00~14:00 | キャンパス散策・各施設見学    |
| 14:00       | 解散               |

※模擬授業

- ・文学部コミュニケーション学科 中山 真 准教授  
「大学で学ぶ心理学～あなたは心理学を誤解しているかもしれない～」
- ・教育学部教育学科 渡邊 賢二 教授  
「子どもの自己肯定感を育むには」
- ・現代日本社会学部現代日本社会学科 岸川 政之 教授  
全国で行う地域活性化から学ぶ「わくわくしながら地域を元気にしよう！」



## 【豊田工業大学】

以下の日程で2講座を実施

- ① 工学部機械システム分野固体力学研究室 椎原 良典 准教授

「いのちをまもる破壊の科学」

10月21日(金) 15:45~16:45

高田高校3号館物理室 高II年 8名・高I年 3名・中3年 3名



- ② 工学部電子情報分野情報記録工学研究室 栗野 博之 教授

「最先端エレクトロニクスの基本は電磁気学」

11月18日(金) 15:45~16:30

高田高校3号館3階物理室 高II年 9名・中3年 10名



## 【名古屋市立大学】

以下の日程で4講座を実施

- ① 総合理工学部自然情報系 田中 豪 准教授

「ヒトの色覚とデジタル画像処理(色覚バリアフリー化色変換)」

10月24日(月) 15:50~17:20

高田高校本館3階社会科教室 高II年 11名・高I年 6名



- ② 経済学部マネジメントシステム学科 出口 将人 教授

「なんでもあり」の経営学

10月26日(水) 15:45~17:15

高田高校本館3階社会科教室 高III年1名・高II年10名・高I年10名・高4年1名



③ 薬学部医療機能薬学病態生化学 服部 光治 教授

「薬学部で行う、脳と遺伝子の研究」

10月28日(金) 15:45~17:15

高田高校本館5階視聴覚教室 高II年6名・高I年25名・高5年10名・高4年2名



④ 人文社会学部国際文化学科 山本 明代 教授

「20世紀の歴史からみる難民と難民支援ー1956年ハンガリー革命の難民たち」

11月16日(水) 15:40~17:10

高田高校本館3階社会科教室 高6年1名・高I年4名・中3年3名



【鳥羽水族館】

毎年恒例のウニの発生実験を鳥羽水族館内の研修室で行った。

8月25日(木)・26日(金) 8:30~16:00

高5年 50名・高II年 13名

実施内容：その場でウニの受精卵を作成し、細胞分裂しウニが発生していく様子を顕微鏡で観察する。また水族館のバックヤードの見学をし、水族館の役割の一つである生物の保全や調査研究の最先端に触れる。



## 【部活動の推進】

部活動は、学年や学級を超えて共通の興味と関心を追求する中で体力や技術の向上はもとより、マナーやルールを守る社会性を身につけ、自らの意思で参加するという自主性を養い、活動を通して個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つです。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさ

をもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続して続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやることや社会のルールを学ぶ一助としています。

主な活動実績はつぎの通りです。

令和5年3月現在のクラブ活動所属生徒数				
高等学校	文化部	22部	522名	(男161名・女361名)
	運動部	17部	601名	(男356名・女245名)
	生徒会直 属部、同好 会、愛好会	9部	155名	(男48名・女107名)
	計			1,278名
中学校	文化部	9部	178名	(男92名・女86名)
	運動部	11部	371名	(男215名・女156名)
	生徒会直 属部、同好 会、愛好会	7部	30名	(男2名・女28名)
	計			579名

活動実績		
高等学校		
運動部	インターハイ 全国大会出場	男子卓球部・女子柔道部・馬術部・なぎなた部
	その他東海大会出場	陸上部・剣道部・女子バレー部・新体操部・女子卓球部・男子柔道部
文化部	全国大会出場	文芸部(団体優勝)・箏曲部・将棋部・放送部・囲碁同好会
中学校		
運動部	全国大会出場	なぎなた部(JOC演技の部優勝)
文化部	全国大会出場	放送部



### 【体育祭】

6月8日（水）・10日（金）に新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、昨年同様、学年別で開催されました。熱中症対策と新型コロナウイルス対策との両立に心配もありましたが、教員、生徒の皆さんの協力のもと、安全に行うことが出来ました。

### 【芸術鑑賞】

6月15日（水）・16日（木）には3年ぶりに三重県総合文化センター中ホールにて芸術鑑賞が行われました。中学生、高校生共に、「劇団うりんこ」による「わたしとわたし、ぼくとぼく」を観劇しました。初めて本格的に演劇に触れる生徒も多く、とても有意義な1日となりました。

### 【文化祭】

9月13日（火）は3年ぶりにクラス展示・模擬店を行うことが出来ました。保健所指導のもと、コロナウイルス感染拡大防止対策として、食事場所をアーケードやグラウンドに設置するなど工夫し、生徒達は非常に楽しんでいました。9月14日（水）と15日（木）は、高校生の学年を分け、2日間同じ演目で体育館発表が行われ、部活動の発表や個性豊かな有志の発表で盛り上がりました。14日には「タイムマシン3号」15日には「土佐兄弟」によるお笑いライブも開催され、生徒も大変喜んでおりました。中学生は講堂で、部活動や有志の活発な活動が見られました。コロナ禍で人と関わることを制限されて3年目、再び行事を通して、協力や団結の大切さ、芸術に触れる豊かさ、1人1人のもつ素晴らしい能力を発揮する機会の重要性を感じました。また、今年度より体育館にクーラーが設置され、快適な環境で鑑賞することが出来ました。

## 【危機管理・安全教育への取り組みの推進】

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

近年は想定をはるかに超える豪雨災害が頻発するなど、防災教育の重要性はますます高まっています。本校ではこのような予測不可能な緊急事態が発生した場合でも、災害に対する正しい知識に基づき、生徒が自ら冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災教育に取り組んでいます。また、防災用品として昨年度導入した非常用リチウムイオンバッテリーにより停電時にも迅速に対応できる体制を整えています。今年度は4月27日（水）に津波対応避難訓練を行いました。

危機管理の取り組みとしては、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置の持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩及びウイルス等の感染がないように、周知徹底を図っているほか、インターネット上での誹謗中傷等の書き込みなどにも傾注しています。

保護者への連絡手段としては、「あんしんネット」、「きずなネット」等により、最新情報を随時的に提供しています。

感染症対策として、令和4年度学校保健特別対策事業補助金を利用してUV-C空気殺菌器を本館1階応接室1・2に各々1台、本館5階講堂に2台、合計4台導入しました。

## 学校安全・生活指導、保健計画の推進

令和5年4月から「道路交通法の一部を改正する法律」（令和4年法律第32号）により、全ての年齢層の自転車利用者に対して、乗車用ヘルメットの着用が努力義務が課されます。本校では学校安全管理の立場から、令和5年度よりすべての自転車通学生に対してヘルメットの着用を義務付ける予定です。それに伴い、3月15日（水）にJAF日本自動車連盟三重支部の職員に来校していただき、「ヘルメット着用の必要性」について、全校放送による啓発活動を実施しまし

た。本校は約750名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いこともあり、事故をおこさないよう日頃から基本的なルールや事故の悲惨さを訴え知識や技術の向上に努めるとともに、生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚にも傾注しています。このほか、社会生活面において、4月12日(火)にはスマートフォン・タブレットの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する「スマホ・パソコン安全教室」を開催し、10月8日(土)には高Ⅲ・6年に向けて「薬の正しい使い方」と題して、学校薬剤師の秦賢司先生による薬物乱用防止教室を実施しました。

また、18歳より選挙権が与えられたことにより、2月22日(水)に村林法律特許事務所へ依頼し、高校Ⅱ年生および5年生を対象に「有権者としての心構え等について」をテーマに講演を実施し、主権者としての自覚と選挙への意識の高揚を図りました。

## コロナウイルス感染拡大防止対策

令和元年12月初旬に中国の武漢市で新型コロナウイルスの第1例目感染者が報告されてから、4年目を迎えました。世界中を席卷した流行期から顧みると新型コロナウイルスへの対応も少しずつ変化をしてきました。令和5年5月8日より感染症法上の位置づけも2類から5類に変更される見通しとなりました。しかし、本校における新型コロナウイルス感染症防止対策としては、継続して毎朝の体調チェックをClassiのアンケート機能を利用して報告し、マスクの着用、手指消毒、換気を心掛けるなど生徒、教職員共に取り組んでいます。昼食時には、生徒は教室内での黙食、教職員は大会議室にパーテーションを設置し昼食場所としています。正面玄関および各校舎の生徒昇降口にスタンド型足踏み式のアルコール消毒液を設置し、各教室にもアルコール消毒液を設置し適時補充を行っています。さらに昨年度は、コロナウイルスの殺菌に有効とされているUV-Cの室内空気殺菌器を4台購入し保健室と大会議室に設置しました。オゾン除菌脱臭装置も15台購入し、体育館学生ホールに4台、職員室横学生ホールに4台、職員室に6台設置しました。今後は、コロナウイルス感染拡大のみならず学校における感染症の予防、拡大防止務めるべく、新しく正しい情報を提供できるよう情報収集に努めていきたいと思っております。

## 【国際理解教育推進】

目的	国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。 受け入れ家庭が、生徒とともに学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## オーストラリア交換留学

平成6年(1994)より実施しているオーストラリアのセントモニカ校・パレード校との交換留学は、残念ながら令和2年3月(訪豪)以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しています。

## イギリス語学研修

イギリス語学研修は、現地の語学学校のインターナショナルクラスで他国の生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムで、中学3年生・高校生を対象に実施しています。

また、研修中はホームステイをすることにより、英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての感覚を養うこととなっています。

残念ながら、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しています。

## イングリッシュ・キャンプ

本校A L Tに加え、外部からのゲストA L Tを講師として迎え、高校1年生Ⅱ類・特別選抜クラスの生徒を対象に「イングリッシュ・キャンプ」を実施しています。

生徒達は、オール・イングリッシュで様々なアクティビティに参加したり、1学期に授業を通して準備してきたプレゼンテーションを保護者参観のもと発表したりして、英語や異文化への興味・関心を深め、スピーキング力をも高める良い機会となっています。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら、2年ぶりに実施することができ、生徒同士が親睦を深めながら、日頃の学習成果を存分に発揮しました。



## 「Inspire High (インスパイア・ハイ)」サービスの導入

本年度は、経済産業省が実施する「EdTechソフトウェア・サービスの導入実証事業」に採択された「Inspire High」サービスを試験導入いたしました。これは、アーティストやビジネスリーダー、研究者など、第一線で活躍し、自分の人生を楽しむ様々な大人から、自分の世界を広げるインスピレーションをもらう、13歳～19歳のためのオンラインラーニングコミュニティです。

新しい時代に必要な資質・能力を身に付けていくためには、英語を学ぶだけでなく、実社会での課題解決に生かしていくために必要な教科横断的学び（STEAM教育：S・サイエンス、T・テクノロジー、E・エンジニアリング、A・アート、M・マセマティクス）を探究すること、加えてテクノロジーを活用することは欠かせません。

高校1年生Ⅱ類の英語授業や人権教育授業のなかで、英語を用いて展開されるクリエイティブでワクワクするテーマを取り扱いながら、生徒達が自分自身の在り方・生き方について考えるコンテンツとして有効に利用することができました。



## 「With The World (ウィズ ザ ワールド)」サービスの利用

高校1年生Ⅱ類・特別選抜クラスは、英語コミュニケーションⅠが1単位多く設定されており、2学期はSDGs学習に取り組みました。そして、学んだことを活かすため、3学期にオンライン国際交流授業（グローバル探究学習）を提供する株式会社With The Worldのサービスを利用し、カザフスタン、ベトナムの中高生たちとグループ・ディスカッションを行いました。国境を越えて共有すべき課題と、国によって異なる考え方を共有するいい機会となりました。



## 教職員海外研修

教職員の海外研修の成果については、職員会議・学校校報・研究紀要において報告を行い、他の教員と情報共有することで教員全体の意識向上を図っており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上につなげています。

令和4年度本校におきましては、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて、教員の派遣は行いませんでした。

## 学校自己点検・学校関係者評価

### 学校自己評価

学校自己評価については、例年「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

令和4年度の目標	
目指す学校像 (教育理念)	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。 校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。 崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切にし、世界に貢献できる人材の育成に努める。
点検・評価の日程	
令和4年 6月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
令和4年 12月	評価項目の確認と評価方法の決定
令和5年 3月末	評価実施
令和5年 4月	集計と分析
令和5年 5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

### 授業アンケート

生徒がよい授業を受け、学力向上につなげるには、教員一人ひとりが授業改善に取り組む必要があります。教員自らが自分の授業を振り返り、自らの課題について分析できるよう生徒による授業アンケートを2学期後半に実施し、各教員に詳細を知らせるとともに、保護者には概要を令和5年3月に公表しました。

### 学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長を図り、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数8名（教育関係者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、令和4年度の評価委員会は中止としました。

## 教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

教育を取り巻く環境が大きく変化の中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できる教員研修を推進していきます。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望していることから、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべく把握に努めています。

また、公立中学校へ出向いて行う模擬授業は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

新規採用者は、採用年度に学校の教員としての適性を考える機会として、職務の遂行に必要な実践的指導力と使命感の修養ならびに幅広い知見の習得及び教育指導の充実を図るための課題の解決等を目的に外部研修に参加し、モチベーションを高めています。さらに、本校においても独自に指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日も早い自立を目的として、年間10回の研修を実施しており、終了後は受講についてのアンケートおよび校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てています。

令和4年度 初任者研修 年間計画表

	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任者の声	4月 8日(金) 11:00~11:50	黒野	4 号 館 会 議 室	教員
2	高校の歴史と建学の精神について	4月11日(月) 14:40~15:30	学校長		学校長
3	学校法人の構想について	4月13日(水) 14:40~15:30	加藤		事務局長
4	コンプライアンス (知務規程と教育法規)	4月14日(木) 10:00~16:50	平岡		副校長
5	教職の実務 中・高の教務	4月18日(月) 15:40~16:30	谷口		教務部長
6	生徒指導	4月25日(月) 15:40~16:30	福山		生徒指導部長
7	進路指導	4月27日(水) 10:40~16:30	伊藤?		進路指導部長
8	人権教育推進	5月 2日(月) 15:40~16:30	鈴木		人権教育委員
9	学校の危機管理	5月 9日(月) 15:40~16:30	石川		教員
10	特別支援教育・カウンセリング	5月13日(金) 15:40~16:30	約場・松尾		支援教育・学校カウンセラー

このほか、中堅以上の教員についても、これからの学校をリードするための知識や能力を養うため例年外部研修会にも参加していますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、派遣は見合わせました。

今後もできる限り外部の講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまで教員としての資質向上に役立てていきたいと考えています。

## 【生徒募集活動】

### 高田中・高等学校公開イベント

#### 小学生を対象とした「学びのひろば in 高田」

地域交流事業の一つとして、小学生（４・５年生）を対象とした公開講座「学びのひろば in 高田」を年２回開催します。昨年より、従来の「算数オリンピック」だけでなく、他教科もオリンピックを実施しており、様々な分野に興味関心を持つ児童たちを募集したいと考えています。また、各講座で、探究する楽しさを児童たちと共有しながら、本校の魅力や情報の発信にも努めています。今年度の参加児童数は、８月２７日（土）は９３名、２月１１日（土・祝）は９５名でした。児童たちは、真剣な表情でオリンピックの問題にチャレンジし、各講座におけるゲームやクイズ、散策、作品作りなどの企画にも意欲的に取り組み、有意義な時間を過ごすことができました。

学びのひろば in 高田		
日 時	８月２７日（土）	令和５年２月１１日（土・祝）
テーマ	① たかだ冬季理科オリンピック 「知力を競え！科学アスリート」  ② 英語「英語であそぼう」  ③ 仏教「歩いてみよう高田本山」	① たかだ冬季社会オリンピック 「地理と歴史の迷宮（ラビリンス） ～三重を制覇せよ～」  ② 国語「小説の世界に触れよう 心情あてクイズ～」  ③ 美術「マーブリングを楽しもう」
定 員	１０８名	１０８名



#### 中学校入試説明会

本年度は、９月２３日（金・祝）に、小学６年生の児童とその保護者を対象とした「中学校入試説明会」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、午前と午後の２回に分けて実施しました。午前の部は、１９４組の家族が参加し、午後の部は、８４組の家族が参加しました。学校概要に加え、各教科からも入試に関する説明を行いました。

その他の生徒募集活動としては、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展にも参加し、PRに努めています。



## 高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会

高等学校生徒募集活動では、各中学校で行われる入試説明会に参加し、また教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し、入試や本校の教育内容について最新の情報を詳細に説明しています。

学校見学会は、2年の間コロナウイルス感染拡大により開催ができませんでしたが、今年度はコロナウイルス感染拡大防止対策で4回に分け開催を計画しました。第1回（8月20日）・第2回（8月22日）・第3回（9月18日）は、各回約330名、計約990名の受験生と保護者の方々に、ご来校いただきました。第4回（9月19日）は、台風の影響により中止としましたが、10月2日に代替の日を設け開催しました。どの回も申し込み初日で募集定員が満席となってしまう状況で、大変人気のイベントとなっています。

個別見学会については第1回（10月29日）・第2回（11月5日）・第3回（11月19日）の土曜日に例年通り開催することができました。約500名の中学生、保護者が来校されました。

どちらも本校の良さを理解していただけるよう、詳しい学校説明や校内見学・部活動見学等を行っています。

なお、経済的不安を抱えられている家庭については、国や県の就学支援制度などを活用することで、安心して教育が受けられる体制を整えていることをアピールしています。

## Web出願

昨年度より高校入試において導入したWeb出願システムにより、スマートフォン等の電子機器での手続きが可能となりました。これにより志願者は出願期間中であれば時間の制約なく登録できるようになっただけでなく、受験料もクレジットカード等での決済ができるようになりました。

学校側も今まで紙面で提出されていた願書等出願時の書類をデータで処理できるようになるため、入試処理作業の負担が軽減することができただけでなく、各中学校側としても志願者の出願状況がシステム上で把握でき、本校への入試に関する書類の提出もデータで行うことができるため、以前に比べ非常に利便性が向上しました。

今年度は中学校入試においてもWeb出願システムを導入しました。志願者が入力した出願データを利用し、受験票作成等の入試処理業務ができるようになり、高校と同様に業務効率が飛躍的に上がりました。



## 【施設整備の整備事業実績】

### J R 一身体田駅周辺通学路グリーンベルト整備工事

施工業者 : (有)松村土木 (株)北斗エス・イー・シー  
施工費用 : 7,870,000円  
施工時期 : 7月20日～8月30日

### 第1・2・3体育館エアコン設置工事

施工業者 : 藤原工業(株) (株)中部都市設計建築事務所  
施工費用 : 140,632,800円  
施工時期 : 7月2日～令和5年1月9日

### 採点ナビ

購入業者 : (株)教育ソフトウェア  
購入費用 : 1,650,000円  
購入時期 : 10月14日

### 鉄棒(西グラウンド)

施工業者 : ヨシダ運動具店  
施工費用 : 703,000円  
施工時期 : 9月27日

J R 一身体田駅周辺通学路グリーンベルト



第1体育館エアコン



鉄棒(西グラウンド)



## 財務の概要

### 資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は47億5,583万円となり、前年度の決算額と比較し5億1,104万円の増額となりました。

#### 令和4年度 資金収支計算書総括

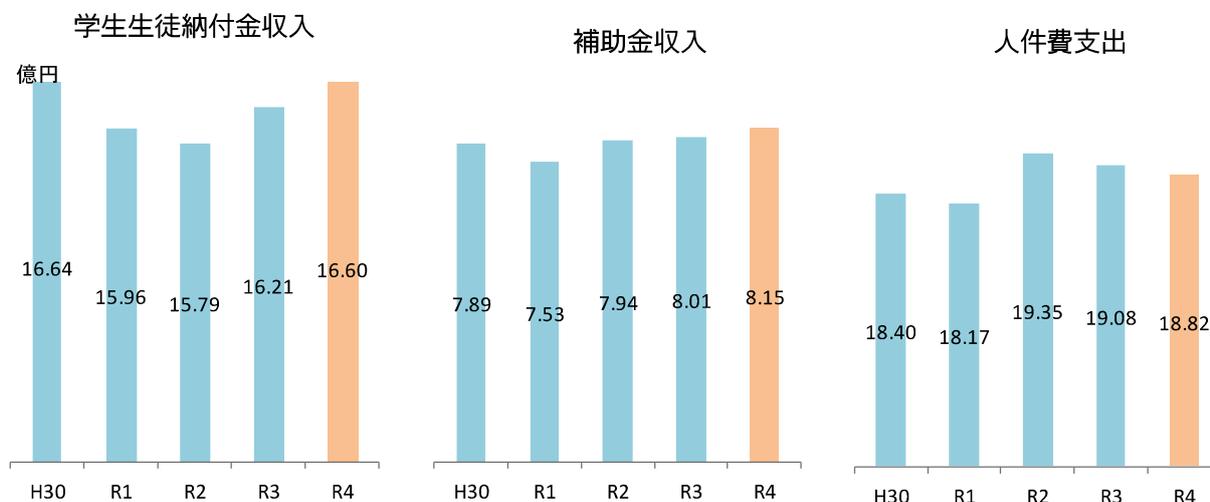
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,660,653	38,679	人件費支出	1,882,928	▼ 25,791
手数料収入	47,740	▼ 879	教育研究経費支出	386,378	86,483
寄付金収入	13,154	4,143	管理経費支出	116,154	25,364
補助金収入	815,811	14,402	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	200,000	140,632	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	21,852	2,668	施設関係支出	177,300	177,300
受取利息・配当金収入	11,018	857	設備関係支出	47,340	32,903
雑収入	121,430	▼ 631	資産運用支出	709,680	247,597
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,117,082	▼ 8,260
前受金収入	286,040	589	資金支出調整勘定	△ 90,022	▼ 30,818
その他の収入	1,534,496	224,259			
資金収入調整勘定	△ 359,085	11,854			
<b>当年度収入合計</b>	<b>4,353,108</b>	<b>436,572</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>4,346,841</b>	<b>504,778</b>
前年度繰越支払資金	402,725	74,472	翌年度繰越支払資金	408,991	6,266
<b>収入の部合計</b>	<b>4,755,832</b>	<b>511,044</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>4,755,832</b>	<b>511,044</b>

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は令和3年度決算との比較です。

### 主要科目の推移



令和4年度 資金収支計算書（短期大学）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	488,574	2,823	人件費支出	415,086	▼ 6,187
手数料収入	7,778	▼ 726	教育研究経費支出	149,452	7,892
寄付金収入	750	▼ 250	管理経費支出	32,569	2,000
補助金収入	118,056	6,059	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	▼ 470	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	21,852	2,668	施設関係支出	31,665	31,665
受取利息・配当金収入	2	▼ 0	設備関係支出	31,881	22,855
雑収入	12,287	▼ 215	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	186,060	▼ 17,415
前受金収入	44,630	▼ 5,600	資金支出調整勘定	△ 47,048	▼ 26,481
その他の収入	164,580	▼ 25,880			
資金収入調整勘定	△ 56,972	10,722			
<b>当年度収入合計</b>	<b>801,536</b>	<b>▼ 10,868</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>799,663</b>	<b>14,329</b>
前年度繰越支払資金	51,592	940	翌年度繰越支払資金	67,153	15,561
<b>収入の部合計</b>	<b>853,127</b>	<b>▼ 9,929</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>866,816</b>	<b>29,890</b>

令和4年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,172,079	35,856	人件費支出	1,450,302	▼ 27,043
手数料収入	39,962	▼ 153	教育研究経費支出	236,927	78,592
寄付金収入	2,404	▼ 1,607	管理経費支出	44,666	6,201
補助金収入	697,754	8,343	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	145,636	145,636
受取利息・配当金収入	2	0	設備関係支出	15,320	10,238
雑収入	107,033	4,639	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	747,994	3,614
前受金収入	241,410	6,189	資金支出調整勘定	△ 33,996	▼ 4,462
その他の収入	804,718	▼ 45,672			
資金収入調整勘定	△ 302,099	894			
<b>当年度収入合計</b>	<b>2,763,263</b>	<b>8,490</b>	<b>当年度支出合計</b>	<b>2,606,848</b>	<b>212,776</b>
前年度繰越支払資金	206,057	43,189	翌年度繰越支払資金	211,537	5,480
<b>収入の部合計</b>	<b>2,969,320</b>	<b>51,679</b>	<b>支出の部合計</b>	<b>2,818,385</b>	<b>218,256</b>

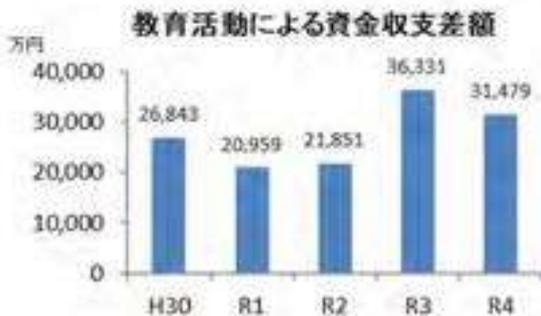
## 活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

### 令和4年度 活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目		決算額	前年比	科 目		決算額	前年比		
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,660,653	38,679	その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	200,000	141,102
		手数料収入	47,740	▼ 879			退職給与引当特定資産取崩収入	0	▲ 100,000
		特別寄付金収入	6,000	6,000			借入金等収入	0	0
		一般寄付金収入	7,154	▼ 1,857			預り金受入収入	822,409	▼ 21,667
		経常費等補助金収入	815,397	13,989			仮払金回収収入	17,983	4,899
		付随事業収入	21,852	2,668			立替金回収収入	39,703	▼ 5,260
		雑収入	121,430	▼ 631			修学旅行費預り資産取崩収入	67,092	▲ 661
		教育活動資金収入計	2,680,225	57,969			修学旅行費預り金受入収入	68,256	1,523
	支出	人件費支出	1,882,928	▼ 25,791		卒業諸費預り資産取崩収入	14,709	434	
		教育研究経費支出	386,378	86,483		卒業諸費預り金受入収入	14,715	330	
管理経費支出		116,154	25,364	小計	1,244,867	20,700			
教育活動資金支出計		2,385,461	86,056	受取利息・配当金収入	11,018	857			
差引	294,764	▼ 28,087	その他の活動資金収入計	1,255,885	21,556				
調整勘定等	20,030	▲ 20,430	支出	借入金等返済支出	0	0			
教育活動資金収支差額	314,794	▼ 48,517		有価証券購入支出	200,000	200,000			
施設設備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入		0	0	退職給与引当特定資産繰入収入	0	▼ 101,000	
		施設設備売却収入		0	▼ 470	預り金支払支出	823,827	▼ 25,716	
		第2号基本金引当特定資産取崩収入		0	0	仮払金支払支出	17,983	4,899	
		施設設備拡充引当特定資産取崩収入		399,186	395,941	立替金支払支出	44,458	4,087	
	施設設備等活動資金収入計	399,186		395,471	修学旅行費預り資産繰入支出	68,256	1,523		
	支出	施設関係支出		177,300	177,300	修学旅行費預り金支払支出	67,092	▲ 661	
		設備関係支出		47,340	32,903	卒業諸費預り資産繰入支出	14,715	330	
第2号基本金引当特定資産繰入支出		0		0	卒業諸費預り金支払支出	14,709	434		
施設設備拡充引当特定資産繰入支出	509,680	148,597	長期前払金支払支出	6,839	6,829				
施設設備等活動資金支出計	734,320	358,800	小計	1,257,878	90,724				
差引	△ 335,135	36,671	借入金等利息支出	0	0				
調整勘定等	28,600	12,809	その他の活動資金支出計	1,257,878	90,724				
施設設備等活動資金収支差額	△ 306,535	49,480	差引	△ 1,993	▼ 69,168				
小 計	調整勘定等	0	0	その他の活動資金収支差額	△ 1,993	▼ 69,168			
	小計	8,260	962	支払資金の増減額	6,266	6			
				前年度繰越支払資金	402,725	74,472			
			翌年度繰越支払資金	408,991	6,266				

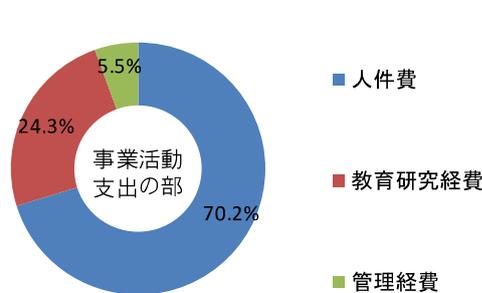
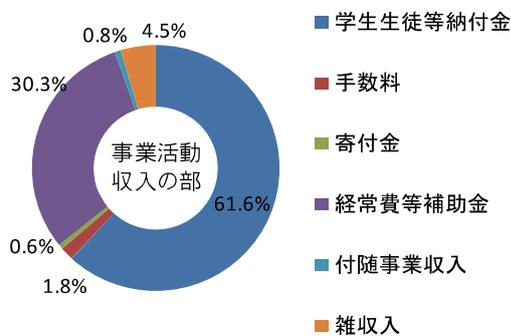


## 事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

(単位：千円)

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,660,653	61.6%	特別収入	資産売却差額	0	0.0%	
	手数料	47,740	1.8%		その他の特別収入	0	0.0%	
	寄付金	16,927	0.6%		本部負担金収入	0	0.0%	
	経常費等補助金	815,811	30.3%		特別収入計	0	0.0%	
	付随事業収入	21,852	0.8%		特別支出	資産処分差額	381	0.0%
	雑収入	122,358	4.5%	その他の特別支出		0	0.0%	
	教育活動収入計	2,685,340	99.6%	本部負担金		0	0.0%	
	事業活動支出の部	人件費	1,885,939	70.2%		特別支出計	381	0.0%
		教育研究経費	651,984	24.3%		特別収支差額	△ 381	
		管理経費	148,051	5.5%	〔予備費〕			
徴収不能額等		0	0.0%	基本金組入前当年度収支差額	10,003			
教育活動支出計		2,685,974	100.0%	基本金組入額合計	△ 161,092			
教育活動収支差額		△ 634		当年度収支差額	△ 151,090			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	11,018	0.4%	前年度繰越収支差額	△ 4,999,803			
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	基本金取崩額	0			
	教育活動外収入計	11,018	0.4%	翌年度繰越収支差額	△ 5,150,893			
	教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0.0%	(参考)			
その他の教育活動外支出		0	0.0%	事業活動収入計	2,696,358			
教育活動外支出計		0	0.0%	事業活動支出計	2,686,355			
教育活動外収支差額	11,018							
経常収支差額	10,384							



### 基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は1億6,109万円でした。主な内訳は、中高第1・2・3体育館空調設備設置工事及び短大1号館空調設備改修工事、中高等学校用PC更新、中高防犯カメラ設置工事です。
第2号基本金	施設設備を取得するため事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は妥当性の検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

短期大学

事業活動収支計算書

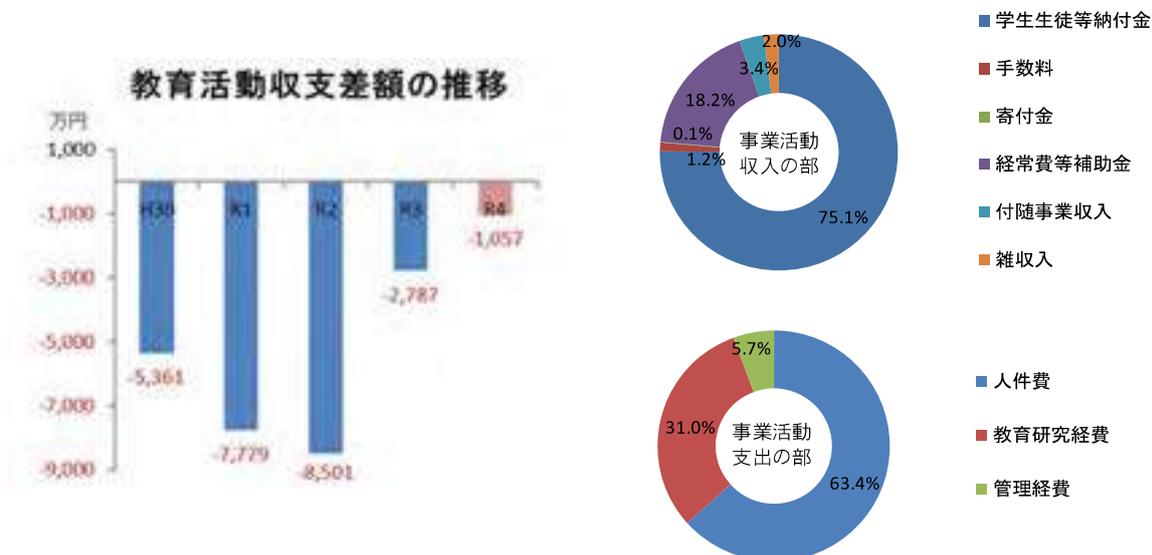
(単位：千円)

科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収入の部	事業活動収入の部				特別収入	収入の部			
	学生生徒等納付金	488,574	75.1%	2,823		資産売却差額	0	0.0%	▲450
	手数料	7,778	1.2%	▼726		その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	802	0.1%	▼1,337		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	118,056	18.2%	6,059		特別収入計	0	0.0%	▲450
	付随事業収入	21,852	3.4%	2,668		支出の部			
	雑収入	13,215	2.0%	▼1,109		資産処分差額	0	0.0%	▲566
	教育活動収入計	650,277	100.0%	8,379		その他の特別支出	0	0.0%	0
	事業活動支出の部					本部負担金	0	0.0%	0
	人件費	418,814	63.4%	▲13,844		特別支出計	0	0.0%	▲566
教育研究経費	204,658	31.0%	3,654	特別収入差額	0		116		
管理経費	37,380	5.7%	1,278	〔予備費〕			0		
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	△10,573		17,406		
教育活動支出計	660,851	100.0%	▲8,912	基本金組入額合計	2,870		13,517		
教育活動収支差額	△10,574		17,291	当年度収支差額	△7,703		30,923		
教育活動外収入の部	収入の部				前年度繰越収支差額	△2,681,779		▼38,626	
	受取利息・配当金	2	0.0%	▼0	基本金取崩額	0		0	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	翌年度繰越収支差額	△2,689,895		▼8,116	
	教育活動外収入計	2	0.0%	▼0	(参考)				
	借入金等利息	0	0.0%	0	事業活動収入計	650,278		7,929	
教育活動外支出の部	支出の部				事業活動支出計	660,851		▲9,478	
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0					
教育活動外支出計	0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	2		▼0						
経常収支差額	△10,573		17,291						

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R2	R3	R4	全国平均	比 率	R2	R3	R4	全国平均
人件費率	77.5	67.4	64.4	61.5	学生生徒等納付金比率	74.4	75.7	75.2	75.0
人件依存率	104.1	89.1	85.7	82.1	経常寄付金率	0.2	0.3	0.1	1.6
教育研究経費率	31.7	31.3	31.5	37.0	経常補助金率	17.4	17.4	18.1	15.9
管理経費率	6.1	5.6	5.8	10.1	減価償却額率	9.5	9.6	9.1	12.6
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.1	経常収支差額率	△15.4	△4.3	△1.7	△9.0
事業活動収支差額比率	△15.4	△4.4	△1.7	△8.7	教育活動収支差額比率	△15.4	△4.3	△1.7	△10.7
基本金組入後収支比率	115.7	106.1	101.2	118.5					

※全国平均は前年度の値



中・高等学校

事業活動収支計算書

(単位：千円)

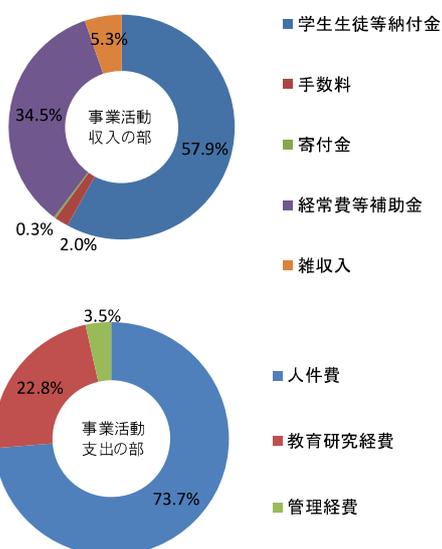
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収支	事業活動収入の部	1,172,079	57.9%	35,856	特別収支	収入の部	0	0.0%	0
	学生生徒等納付金	1,172,079	57.9%	35,856		資産売却差額	0	0.0%	0
	手数料	39,962	2.0%	▼153		その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	6,125	0.3%	1,996		本部負担金収入	0	0.0%	0
	經常費等補助金	697,754	34.5%	8,343		特別収入計	0	0.0%	0
	付随事業収入	0	0.0%	0		支出の部	381	0.0%	▼524
	雑収入	107,033	5.3%	4,639		資産処分差額	381	0.0%	▼524
	教育活動収入計	2,022,954	100.0%	50,681		その他の特別支出	0	0.0%	0
	事業活動支出の部	1,447,542	73.7%	▼33,296		本部負担金	0	0.0%	0
	人件費	1,447,542	73.7%	▼33,296		特別支出計	381	0.0%	▼524
教育研究経費	447,326	22.8%	69,964	特別収支差額	-381		524		
管理経費	69,414	3.5%	6,223	〔予備費〕			0		
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	58,293		8,315		
教育活動支出計	1,964,282	100.0%	42,890	基本金組入額合計	△162,238		▼163,399		
教育活動収支差額	58,671		7,791	当年度収支差額	△103,946		▼155,084		
教育活動外収支	収入の部	2	0.0%	0	前年度繰越収支差額	△210,279		51,138	
	受取利息・配当金	2	0.0%	0	基本金取崩額	0		0	
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	翌年度繰越収支差額	△314,224		▼103,946	
	教育活動外収入計	2	0.0%	0					
	支出の部	0	0.0%	0					
借入金等利息	0	0.0%	0						
その他の教育活動外支出	0	0.0%	0						
教育活動外支出計	0	0.0%	0						
教育活動外収支差額	2		0	事業活動収入計	2,022,956		50,681		
経常収支差額	58,674		7,791	事業活動支出計	1,964,664		42,367		

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R2	R3	R4	全国平均	比 率	R2	R3	R4	全国平均
人件費率	73.6	75.1	71.6	64.2	学生生徒等納付金比率	57.8	57.6	57.9	53.1
人件依存率	127.3	130.3	123.5	120.9	經常寄付金率	0.2	0.2	0.3	1.5
教育研究経費率	19.6	19.1	22.1	28.4	經常補助金率	33.8	35.0	34.5	37.5
管理経費率	2.9	3.2	3.4	5.8	減価償却額率	12.9	12.7	11.9	11.1
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.3	經常収支差額率	3.9	2.6	2.9	1.2
事業活動収支差額比率	4.6	2.5	2.9	2.1	教育活動収支差額比率	3.9	2.6	2.9	0.8
基本金組入後収支比率	107.9	97.4	105.6	106.8					

全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



## 令和4年度補助金一覧表

(単位：千円)

補 助 金 名	当 年 度 ①	前 年 度 ②	差 異 ①－②
短期大学補助金 合計	118,056	111,996	6,060
国庫補助金 計	117,973	111,901	6,072
私立大学等經常費補助金	85,038	80,500	4,538
授業料等減免費交付金	32,935	31,401	1,534
地方公共団体補助金 計	83	95	△ 12
結核健康診断予防接種費補助金	83	95	△ 12
中・高等学校補助金 合計	697,754	689,410	8,344
高等学校補助金 計	533,893	529,131	4,762
国庫補助金 計	200	1,500	△ 1,300
学校保健特別対策事業費補助金 (学校教育活動継続支援)	0	150	△ 150
学校保健特別対策事業費補助金 (学校等における感染症対策等支援)	200	1,350	△ 1,150
地方公共団体補助金 計	533,693	527,631	6,062
私立高等学校等振興補助金	524,721	522,684	2,037
授業料減免補助金	10	0	10
入学金補助金	1,260	1,080	180
人権教育推進事業費補助金	296	195	101
結核健康診断予防接種費補助金	201	190	11
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	300	300	0
私立高等学校振興補助金 (津市)	2,553	2,622	△ 70
私立高等学校振興補助金 (鈴鹿市)	260	260	0
私立学校物価高騰対策支援補助金	3,793	0	3,793
中学校補助金 計	163,861	160,279	3,582
国庫補助金 計	140	1,000	△ 860
学校保健特別対策事業費補助金 (学校教育活動継続支援)	0	100	△ 100
学校保健特別対策事業費補助金 (学校等における感染症対策等支援)	140	900	△ 760
地方公共団体補助金 計	163,721	159,279	4,442
私立高等学校等振興補助金	162,349	158,967	3,382
人権教育推進事業費補助金	107	312	△ 205
私立学校物価高騰対策支援補助金	1,265	0	1,265
総 計	815,810	801,406	14,404

## 貸借対照表の概要

貸借対照表は、令和5年3月31日現在の財政状態を示しています。

### 令和4年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
<b>固定資産</b>	<b>8,045,286</b>	<b>7,993,972</b>	<b>51,314</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>6,084,689</b>	<b>6,472,242</b>	<b>△ 387,553</b>
土地	1,025,123	1,025,123	0
建物	4,064,688	4,292,005	△ 227,317
構築物	628,327	760,124	△ 131,797
教育研究用機器備品	79,859	108,537	△ 28,678
管理用機器備品	11,396	6,410	4,986
図書	232,162	228,707	3,455
車輜	13,215	21,417	△ 8,202
学苑林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	0	0
<b>特定資産</b>	<b>1,908,101</b>	<b>1,468,769</b>	<b>439,332</b>
退職給与引当特定資産	263,490	262,490	1,000
施設設備拡充引当特定資産	1,644,611	1,206,279	438,332
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
<b>その他の固定資産</b>	<b>52,496</b>	<b>52,961</b>	<b>△ 465</b>
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	142	285	△ 142
ソフトウェア	26,870	968	25,901
有価証券	13,298	42,977	△ 29,679
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	8,292	4,837	3,455
<b>流動資産</b>	<b>583,850</b>	<b>570,779</b>	<b>13,072</b>
現金預金	408,991	328,253	80,738
未収入金	73,634	141,724	△ 68,090
前払金	91	91	0
立替金	38,960	38,797	163
修学旅行費預り資産	56,400	56,256	144
卒業諸費預り資産	5,774	5,657	117
<b>資産の部合計</b>	<b>8,629,136</b>	<b>8,564,751</b>	<b>64,386</b>
<b>固定負債</b>	<b>266,357</b>	<b>248,468</b>	<b>17,889</b>
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	266,357	248,468	17,889
<b>流動負債</b>	<b>464,147</b>	<b>434,391</b>	<b>29,755</b>
短期借入金	0	0	0
未払金	89,931	59,097	30,834
前受金	286,040	280,495	5,545
預り金	26,002	32,886	△ 6,884
修学旅行費預り金	56,400	56,256	144
卒業諸費預り金	5,774	5,657	117
<b>負債の部合計</b>	<b>730,504</b>	<b>682,860</b>	<b>47,644</b>
<b>基本金</b>	<b>13,049,525</b>	<b>12,877,399</b>	<b>172,126</b>
第1号基本金	12,877,525	12,705,399	172,126
第2号基本金	0	0	0
第4号基本金	172,000	172,000	0
<b>繰越収支差額</b>	<b>△ 5,150,893</b>	<b>△ 4,995,509</b>	<b>△ 155,384</b>
翌年度繰越収支差額	△ 5,150,893	△ 4,995,509	△ 155,384
<b>純資産の部合計</b>	<b>7,898,632</b>	<b>7,881,891</b>	<b>16,741</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>8,629,136</b>	<b>8,564,751</b>	<b>64,386</b>

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 147,283,855円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,038,530,822円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額

6,831,420,523円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

39,220,500円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(令和5年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	273,297,674	288,396,401	15,098,727
(うち満期保有目的の債券)	(200,000,000)	(200,493,900)	(493,900)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	871,511,806	806,318,421	△65,193,385
(うち満期保有目的の債券)	(871,511,806)	(806,318,421)	(△65,193,385)
合 計	1,144,809,480	1,094,714,822	△50,094,658
(うち満期保有目的の債券)	(1,071,511,806)	(1,006,812,321)	(△64,699,485)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,144,809,480	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(令和5年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	971,511,806	921,362,300	△50,149,506
株 式	3,297,674	17,369,501	14,071,827
投資信託	170,000,000	155,983,021	△14,016,979
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	1,144,809,480	1,094,714,822	△50,094,658
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,144,809,480	-	-

財務比率推移表

(単位：%)

比 率	R2	R3	R4	全国平均	評	算式(×100)	説 明
固 定 資 産 率	93.3	93.1	93.2	84.6	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	75.6	72.0	70.5	59.7	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	17.1	20.9	22.1	20.0	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	6.7	6.9	6.8	15.4	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	2.9	3.1	3.1	5.9	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	5.1	5.0	5.4	5.0	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	13.5	17.7	18.6	26.7	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 用 資 産 率	68.0	82.0	83.5	1.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	92.0	91.9	91.6	89.1	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 58.3	△ 58.2	△ 59.7	△ 22.1	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	101.4	101.4	101.8	95.0	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 率	98.3	98.1	98.5	89.1	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	131.4	135.9	125.7	307.3	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	8.0	8.1	8.4	10.9	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	8.7	8.8	9.2	12.3	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	117.0	141.1	143.0	526.8	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	105.6	100.1	99.7	57.9	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	101.2	101.3	101.0	97.3	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	50.3	50.3	54.6	56.5	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 ( 図 書 除 却 )}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 ( / )}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	28.2	33.8	32.8	68.0	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない  
 全国平均は前年度の値

財産目録

(単位：千円)

一、	資 産	総 額	8,629,136
内	1. 基 本 財 産	6,081,639	
	2. 運 用 財 産	2,547,497	
二、	負 債	730,504	
三、	正 味 財 産	7,898,632	

項 目	数 量	価 値
(一) 資 産		8,629,136
1. 基 本 財 産		6,081,639
(ア) 土 地	102,865.92 ㎡	1,025,123
(イ) 建 物	41,560.74 ㎡	4,064,688
(ウ) 構 築 物	223 点	628,327
(エ) 図 書	105,188 冊	232,162
(オ) 教育研究用機器備品	18,900 点	79,859
(カ) 管理用機器備品	201 点	11,396
(キ) 車 輛	10 台	13,215
(ク) ソフトウェア	7 本	26,870
(ケ) 建設仮勘定		0
2. 運 用 財 産		2,547,497
(ア) 現金及び預金		408,991
(イ) 修学旅行費預り資産		56,400
(ウ) 卒業諸費預り資産		5,774
(エ) 未 収 入 金		73,634
(オ) 借 地 権	1 点	2,258
(カ) 電 話 加 入 権	15 基	1,286
(キ) 施 設 利 用 権	3 点	142
(ク) 差し入れ保証金		350
(ケ) 有 価 証 券	142,917.00 株	13,298
(コ) 土 地	61,913.00 ㎡	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		263,490
(シ) 施設設備拡充引当特定資産		1,644,611
(ス) 第2号基本金引当特定資産		0
(セ) 長 期 前 払 金		8,292
(ソ) 前 払 金		91
(タ) 立 替 金		38,960
(二) 負 債		730,504
1. 固 定 負 債		266,357
(ア) 長期借入金		0
(イ) 退職給与引当金		266,357
2. 流 動 負 債		464,147
(ア) 短 期 借 入 金		0
(イ) 未 払 金		89,931
(ウ) 前 受 金		286,040
(エ) 預 り 金		88,176
(1) 職員源泉等預り金		26,002
(2) 修学旅行費預り金		56,400
(3) 卒業諸費預り金		5,774

正味財産の推移

